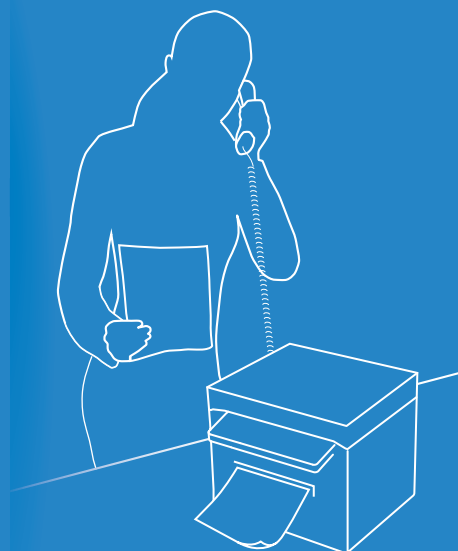
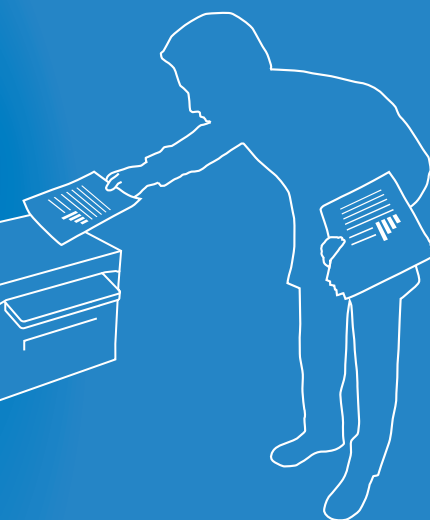
Canon

基本操作ガイド

Canofax L250

本製品の設置や接続の方法とソフトウェアのインストール方法は、スタートアップガイドをご覧ください。

・本書には基本的な操作方法が書かれています。設置完了後にお読みください。
・最初に「安全にお使いいただくために」(→P.84)をお読みください。
・必要なときにいつでも使用できるように大切に保管してください。

本製品の詳細な使用法と製品仕様はUser Software CD-ROMに収められているe-マニュアルをご覧ください。 e-マニュアル

取扱説明書の分冊構成について

スタートアップガイド

スタートアップガイドは本製品の設置およびソフトウェアのインストール方法について説明しています。本製品をご使用になる前に必ずお読みください。

基本操作ガイド

基本操作ガイドは、一般的な使用方法やコピー、ファクス、印刷方法、基本的な機能について説明しています。

e-マニュアル

e- マニュアルは本製品すべての機能と設定について説明しています。必要なときに検索機能を活用してお読みください。

Macintoshをお使いの方へ

本書ではコンピューターに関わる説明はWindowsを例として説明しています。Macintosh用プリンタードライバー、ファクスドライバーの説明は、CD-ROMに収められているドライバーガイドと、各ドライバーの提供するヘルプを参照してください。

ドライバーガイドの格納場所

ドライバーガイドは、付属のUser Software CD-ROM の、下記フォルダーに収められているHTMLファイルをダブルクリックして表示します。

- Canon CARPS2プリンタドライバインストールガイド
  ➡ [**CARPS2**]-[**japanese**]-[**Documents**]-[**Guide**]-[**index.html**]
- Canon ファクスドライバインストールガイド
  ➡ [**FAX**]-[**japanese**]-[**Documents**]-[**Guide**]-[**index.html**]

ヘルプの実行方法

各ドライバー画面でヘルプアイコン()をクリックします。

本書の読みかた

マークについて

警告	取り扱いを誤った場合に、死亡または重傷を負う恐れのある警告事項が書かれています。安全に使用していただくために、必ずこの警告事項をお守りください。
注意	取り扱いを誤った場合に、傷害を負う恐れのある注意事項が書かれています。安全に使用していただくために、必ずこの注意事項をお守りください。
	製品の取り扱いにおいて、その行為を禁止することを示しています。指示内容をよく読み、禁止されている事項は絶対に行わないでください。
	操作上、必ず守っていただきたい重要事項や制限事項が書かれています。誤った操作によるトラブルや故障、物的損害を防ぐために、必ずお読みください。
	操作の参考となることや補足説明が書かれています。お読みになることをおすすめします。

キーについて

本書では、操作するキー、本体ディスプレーに表示されるメッセージ、コンピューター画面上のボタンや項目を以下のように表記しています。

- 操作パネル上のキー：[**キーアイコン**]＋（キー名称）
  例：[ ]（ストップ）
- 本体ディスプレー上のメッセージ：＜**メッセージ**＞
  例：＜**宛先を指定してください**＞
- コンピューター画面上のボタンや選択項目：[**選択項目**]
  例：[**詳細設定**]

おもな機能の紹介

プリント

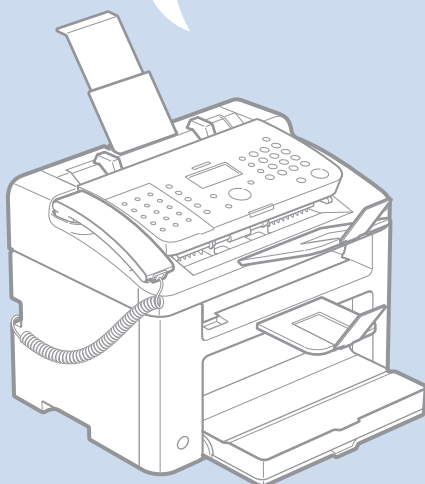
拡大、縮小→ P.32

自動的に拡大／縮小したり、パーセントで倍率を指定することができる

ポスター印刷 → P.34

- 1ページを拡大して複数枚に分割印刷する
- 印刷物を貼り合わせると、ポスターが作れる

スタンプ印刷 → P.35

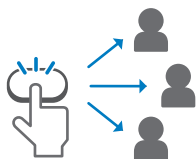
文書にCOPYやDRAFTなどのスタンプ文字を重ね合わせて印刷する

コピー

原稿に合わせて画質調整 → P.27

濃度、原稿の種類を設定して読み込む画像の画質を調整する

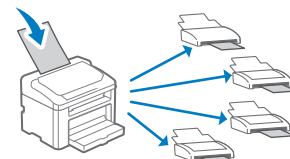
拡大、縮小→ P.27

パーセントで倍率を指定することができる

ファクス

ワンタッチ/短縮/グループダイヤル→ P.45

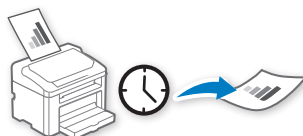
アドレス帳に登録されたワンタッチ、短縮、グループダイヤルを活用して宛先を簡単に指定する

メモリー受信 → P.53

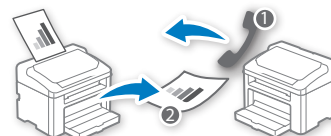
- 受信したファクスをメモリーに保存する
- すぐに印刷せずに、相手先を確認してから印刷したり、不要な場合は消去して使用する用紙を節約したりできる

同報送信 → P.47

複数の宛先に同じ原稿を同時に送信する

原稿に合わせて画質調整 → P.42

濃度、解像度などを設定して読み込む画像の画質を調整する

タイマー送信 → P.47

あらかじめジョブを設定してメモリーに保存しておき、指定した時刻に送信する

ポーリング受信 → e-マニュアル

本製品の操作で相手の原稿を受信する

目次

基本的な操作

コピー

プリント

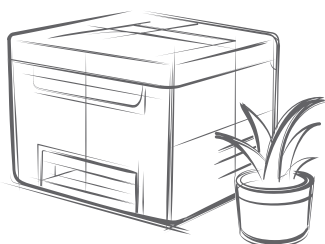
ファクス

（→ P.83）
受信モードについて、よくある質問を参照できます。

メンテナンスと管理

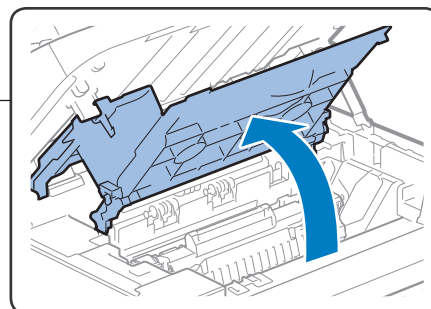
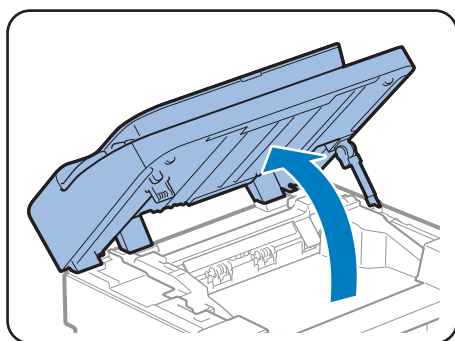
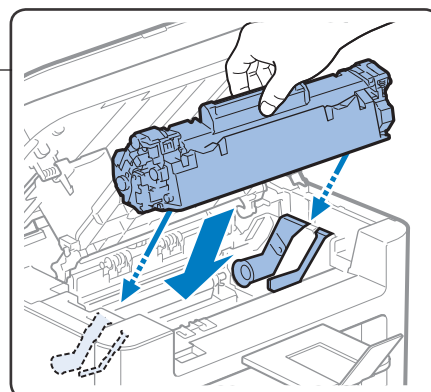
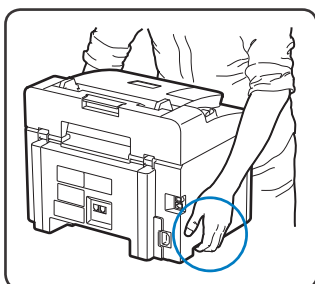
困ったときには

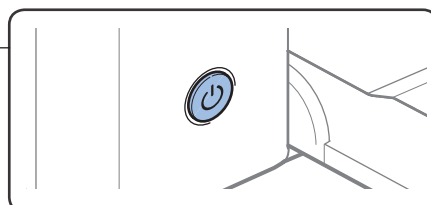
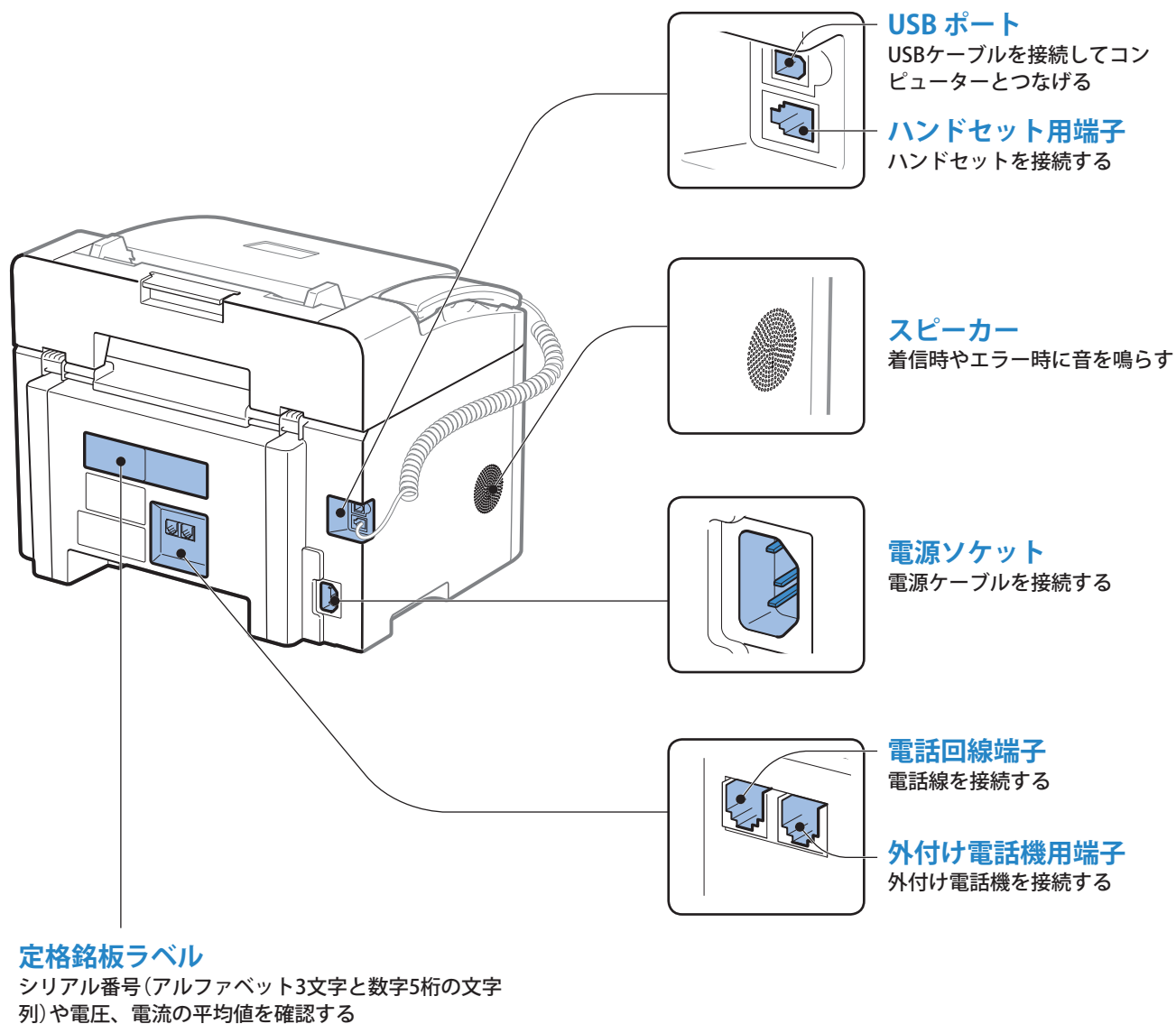
基本的な操作

製品の全体的な操作方法と共通の使用方法、原稿と用紙をセットする方法を説明します。これらを知っておくと、さまざまな機能をお使いになるときに役立ちます。

各部の名称と働き

前面

フィーダー
本製品に原稿を自動的に読み込む（→P.16）
原稿排紙トレイ
フィーダーで読み込んだ原稿が排出される
原稿給紙トレイ
原稿をセットする
原稿ガイド
原稿の幅に合わせて調節する
原稿ストッパー
読み込んだ原稿が落ちるのを防ぐ
操作パネル
パネルから本製品を操作する（→P.11）
ハンドセット
電話をかける
排紙トレイ
印刷された用紙が排出される
排紙ストッパー
排紙トレイから出力紙が落ちるのを防ぐ
給紙カセット（自動給紙）
用紙をセットする（→P.19）
用紙カバー
用紙をセットし、閉めて使用する
小サイズ用紙ガイド
小さい用紙をセットする場合に使用する（→P.20）
用紙ガイド
用紙の幅、長さに合わせて調節する

トナーカバー
トナーカートリッジの交換や内部で
つまった用紙を取り除くときに開く
トナーカートリッジガイド
トナーカートリッジの左右にある突起を
このガイドに合わせて押し込む
取っ手（左, 右）
本製品を持ち運ぶときに使用する
電源スイッチ
本製品の電源を入れたり、切ったりする

背面

USB ポート
USBケーブルを接続してコンピューターとつなげる
ハンドセット用端子
ハンドセットを接続する
スピーカー
着信時やエラー時に音を鳴らす
電源ソケット
電源ケーブルを接続する
電話回線端子
電話線を接続する
外付け電話機用端子
外付け電話機を接続する
定格銘板ラベル
シリアル番号（アルファベット3文字と数字5桁の文字列）や電圧、電流の平均値を確認する

操作パネルの使いかた

メニュー	メニューにある各種機能を使う（次のページ下部の「メニューの使いかた」を参照）
用紙設定	給紙カセットにセットする用紙のサイズと種類を設定する（→P.23）
レポート	レポートやリストを印刷する（→P.71）

クリア	入力した数字や文字を削除する
0～9（テンキー）	数字や文字を入力する
*	• 文字の入力モードを切り替える • ファクス使用時はトーン信号を発信するのに使用する
#	記号を入力する

節電

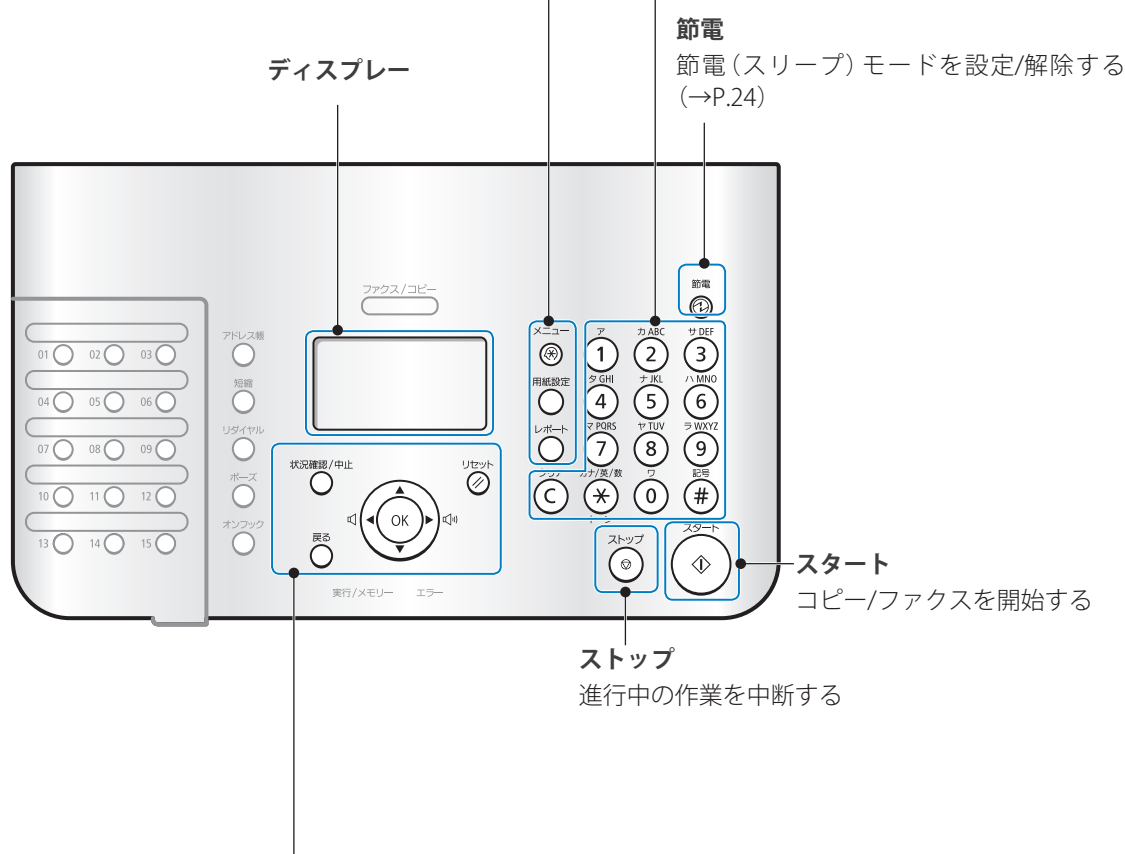
節電（スリープ）モードを設定/解除する（→P.24）

ディスプレー

スタート

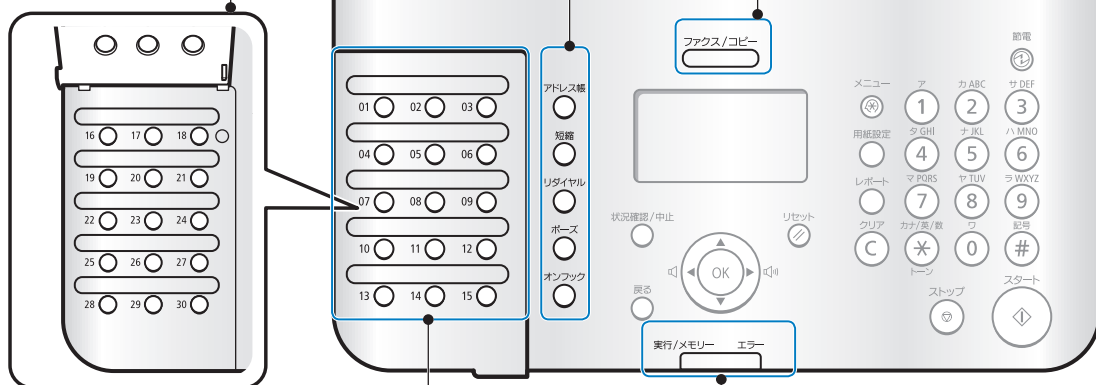
コピー/ファクスを開始する

ストップ

進行中の作業を中断する

状況確認/中止	実行中のジョブの確認や中止、本製品の状態の確認をする（→P.28、P.36、P.55）
戻る	1階層前の画面に戻る
▲/▼	上/下の項目を選択、または設定値を増減させる
◀/▶	• 1階層前/次の画面に移動、またはカーソルを移動する • ファクス通信音が鳴っているときには音量調節する
OK	設定、登録した内容を確定する
リセット	設定をデフォルト値に戻す

アドレス帳	アドレス帳に登録した宛先を検索する（→P.46）
短縮	短縮ダイヤルに登録した宛先を指定する（→P.45）
リダイヤル	直前にかけた3件の番号を選んでリダイヤルする（ファクス操作のモードが表示されているときのみ使用できます）（→P.46）
ポーズ	ファクス番号の入力時にポーズを挿入する（→P.48）
オンフック	外付け電話機またはハンドセットを置いたままダイヤルする

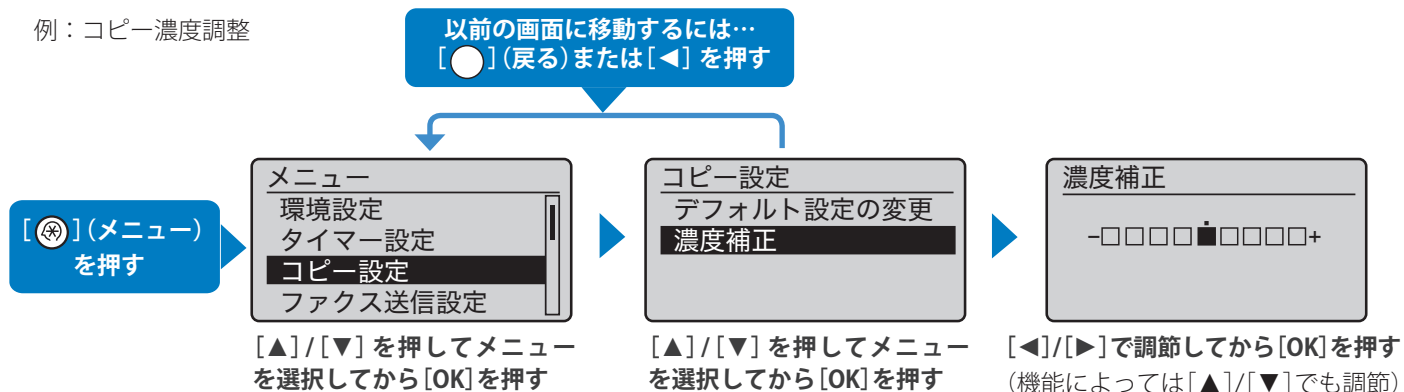
［ファクス/コピー］キー
各モードに切り替える（→P.13）

16～30にワンタッチキーに登録した場合はカバーを開けて指定する

ワンタッチキー
ワンタッチキーに登録した宛先を簡単に指定する（→P.45）

実行/メモリーランプ
通信中に点滅、待機中のジョブがあるときに点灯する

エラーランプ
エラーが発生すると点滅する

メニューの使いかた

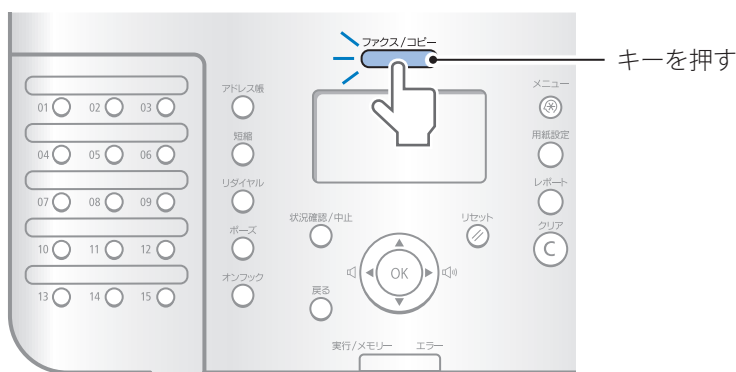
例：コピー濃度調整

［ ］（メニュー）を押して設定を終了する

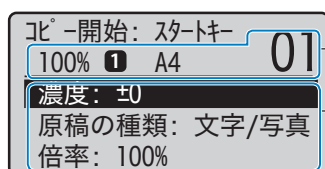
メモ

［OK］を押さずにメニューを終了すると、設定値が保存されないので注意してください。

コピー/ファクスモードに切り替える

各モードの画面に切り替えます。

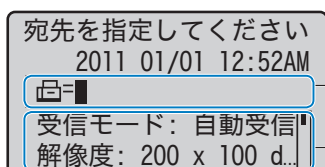
キーを押す

モードを切り替えてからしばらく使わないと、基本画面であるファクスモードに切り替わります

コピーモード

設定した拡大/縮小倍率、用紙の給紙場所とサイズ、コピー枚数を表示

設定を変更するには

1. [▲]/[▼]で項目を選択し、[**OK**]を押す
2. [▲]/[▼]または[◀]/[▶]で設定値を選択し、[**OK**]を押す

ファクスモード

宛先を指定してください
2011 01/01 12:52AM
受信モード：自動受信
解像度：200 x 100 d...

宛先番号表示

設定を変更するには

1. [▲]/[▼]で項目を選択し、[**OK**]を押す
2. [▲]/[▼]または[◀]/[▶]で設定値を選択し、[**OK**]を押す

基本画面に戻る時間を変更するには
[㊝](メニュー)➡ <**タイマー設定**> ➡ <**オートクリアタイム**> ➡ 時間を設定 ➡ [**OK**]

文字を入力する

文字を入力する必要がある画面になると、テンキーを使って文字を入力できます。

入力モードを切り替えるには

<カナ>	カタカナ
<aA>	アルファベットと記号
<12>	数字

[(*)]を繰り返し押す

または

1. [▲]/[▼]で<**入力モード**>を選択し、[**OK**]を押す
2. [▲]/[▼]で必要に応じたモードを選択し、[**OK**]を押す

文字や記号、数字を入力するには

入力したい文字に該当するキーを、その文字が表示されるまで繰り返し押す

使用するキー	入力モード：<カナ>	入力モード：<aA>	入力モード：<12>
(1)	ｱｲｳｴｵｧｨｩｪｫ	@.-_/	1
(2)	ｶｷｸｹｺ	ABCabc	2
(3)	ｻｼｽｾｿ	DEFdef	3
(4)	ﾀﾁﾂﾃﾄｯ	GHIghi	4
(5)	ﾅﾆﾇﾈﾉ	JKLjkl	5
(6)	ﾊﾋﾌﾍﾎ	MNOmno	6
(7)	ﾏﾐﾑﾒﾓ	PQRSpqrs	7
(8)	ﾔﾕﾖｬｭｮ	TUVtuv	8
(9)	ﾗﾘﾙﾚﾛ	WXYZwxyz	9
(0)	ﾜｦﾝ	（入力不可）	0
(#)	ﾞ（濁音） ﾟ（半濁音） -（ハイフン）	@./-_!?&$%#()[]{}<>*+=",;:'^`|¥	（入力不可）

- カーソル前の文字削除
- 長押しすると、全体削除

- カーソル移動
- 文字の最後にカーソルを合わせて[▶]を押すと、スペースが入力

入力例（例: キヤノン1a）

[*]を押して、入力モードを<**カナ**>に切り替える

▶

[**2**]を繰り返し押して、<**キ**>を入力する

キ

▶

[**8**]を押して、<**ヤ**>を入力する

キヤ

[**5**]を繰り返し押して、<**ノ**>を入力する

キヤノ

▶

[**0**]を繰り返し押して、<**ン**>を入力する

キヤノン

▶

[*]を繰り返し押して、入力モードを<**12**>に切り替える

[**1**]を押して、<**1**>を入力する

キヤノン1

▶

[*]を繰り返し押して、入力モードを<**aA**>に切り替える

▶

[**2**]を繰り返し押して、<**a**>を入力する

キヤノン1a

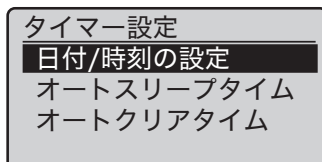
日付と時刻を設定する

ファクス機能や各種レポートで表示される日付と時刻が合わないときに正しく設定します。

1 [ ](メニュー)を押す

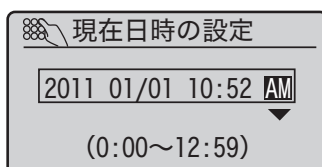
2 [▲]/[▼]で<**タイマー設定**>を選択し、[**OK**]を押す

3 [▲]/[▼]で<**日付/時刻の設定**>を選択し、[**OK**]を押す

タイマー設定
日付/時刻の設定
オートスリープタイム
オートクリアタイム

4 [▲]/[▼]で<**現在日時の設定**>を選択し、[**OK**]を押す

- 日付時刻の表示方法を変更するには、<**日付表示タイプ切替**>または<**12/24時間表示切替**>で設定します。

5 テンキーで日付と時刻を入力し、[**OK**]を押す

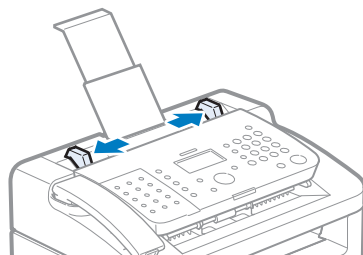
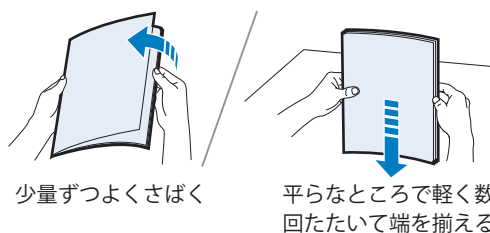
- [◀]/[▶]でカーソルを移動します。
- [▲]/[▼]で<**AM**>と<**PM**>を切り替えます。

6 [ ](メニュー)を押して設定を終了する

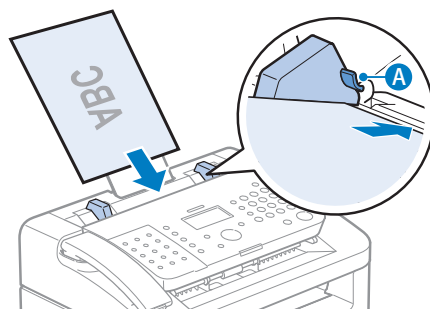
原稿をセットする

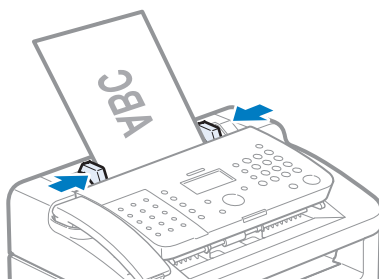
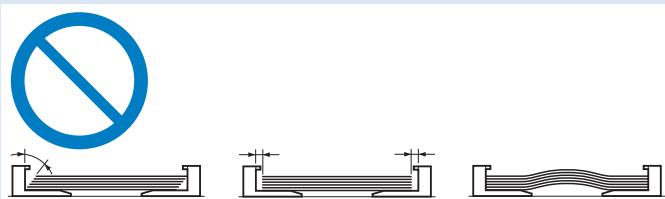
1 原稿給紙トレイを引き出す

2 原稿ガイドの幅を原稿の幅より少し広めにセットする

3 原稿をさばいてから、原稿の端を揃える

少量ずつよくさばく

平らなところで軽く数回たたいて端を揃える

4 読み取る面を下にして原稿をセットする

- 積載制限ガイド(A)の下を通します。

5 原稿ガイドを原稿の幅に隙間なく合わせる

重要

ゆるすぎたりきつすぎたりすると、原稿が正しく送られなかったり、紙づまりの原因になります。

- のり、インク、修正液が完全に乾いてから、原稿をセットしてください。
- フィーダー内で原稿がつまるのを防ぐために以下のものは使用しないでください。
  - しわや折り目のある原稿
  - カーボン紙やカーボンバック紙
  - カールした、または巻いた紙
  - コート紙
  - 破れた原稿
  - 薄質半透明紙や薄紙
  - ステイプルの針またはクリップが付いた紙
  - 熱転写プリンターで印刷された紙
  - OHPフィルム
- 原稿を読み込んでいるときに原稿を追加したり、抜いたりしないでください。
- 原稿の読み込みが終わったら、紙づまりを防ぐために原稿排紙トレイから原稿を取り出してください。
- 同じ原稿を30回以上読み込まないでください。繰り返し読み込まれた原稿は、折りたたまれたり破れたりして、紙づまりを起こすことがあります。

- 以下のサイズと坪量の原稿をセットできます。
  - サイズ（幅×長さ：127.0mm×139.7mm ～216.0mm×356.0mm）
  - 坪量（50 g/m^2 ～ 105 g/m^2）
- 最大30枚までセットできます。

用紙をセットする

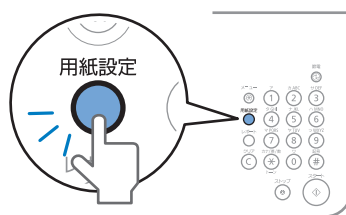
セットする前に用紙が適切かどうか確認してください。不適切な用紙を繰り返しセットすると、紙づまりの原因になるので、必ず使用可能な用紙をセットしてください。

Step 1 使用可能な用紙かどうか確認する

A4、B5、A5、はがき、封筒などの用紙を使用することができます。
使用可能な用紙の詳細は、e-マニュアルの「おもな仕様」→「用紙について」を参照してください。

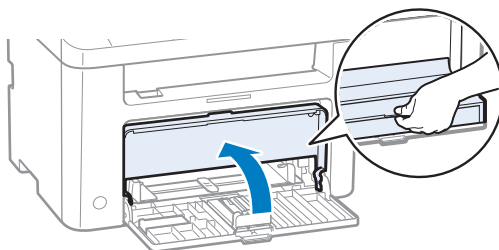
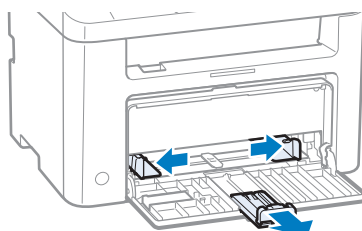
紙づまりを防ぐために以下の用紙は使用しないでください。

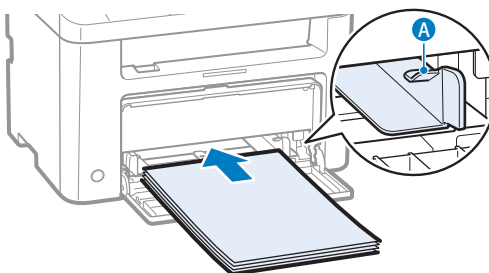
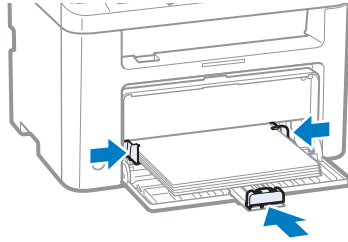
- しわや折り目のある紙
- カールした、または巻いた紙
- 破れた紙
- 湿った紙
- 非常に薄い紙
- 熱転写プリンターで印刷された紙（裏面にコピーしないでください）

セットした用紙のサイズと種類を設定する

セットした用紙と設定した用紙のサイズが違う場合は、エラーメッセージが表示されたり、正しく印刷できなかったりします。

給紙カセットに用紙をセットする

A4サイズの用紙をセットする場合を例に説明します。はがきをセットするときは「はがきや小サイズ用紙をセットする」(→P.20)を、封筒、レターヘッドやロゴ付きの用紙をセットするときは「はがき、封筒、レターヘッド用紙をセットする」(→P.22)を参照してください。

1 用紙カバーを開ける

2 用紙ガイドの幅を紙幅より少し広めにセットする

3 印刷する面を上にして、用紙の端が奥にあたるまでゆっくりと差し込む

- 用紙は積載制限ガイド(A)の下を通してください。

4 用紙ガイドを用紙の幅と長さに隙間なく合わせる

重要
ゆるすぎたりきつすぎたりすると、用紙が正しく送られなかったり、紙づまりの原因になります。

5 用紙カバーを閉める

6 セットした用紙のサイズと種類を設定する（→P.23）

はがきや小サイズ用紙をセットする

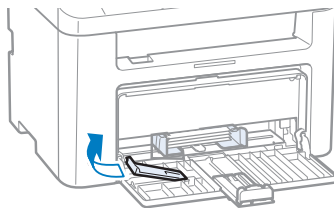
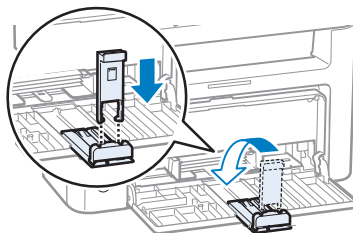
小サイズ用紙ガイドを使って、はがきなど、小サイズ用紙をセットします。

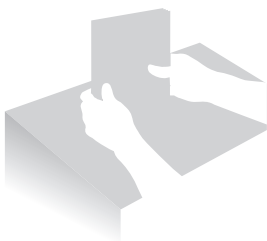
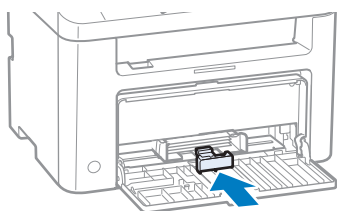
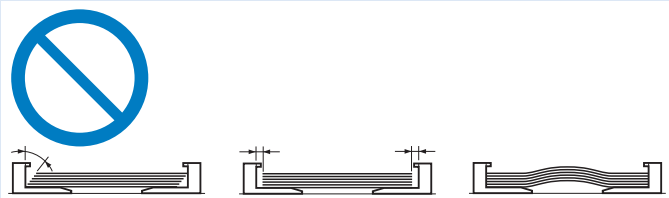
1 用紙カバーを開ける

2 用紙ガイドの幅を紙幅より少し広めにセットする

3 印刷する面を上にして、用紙の端が奥にあたるまでゆっくりと差し込む（→P.22）

4 用紙ガイドを用紙の幅に隙間なく合わせる

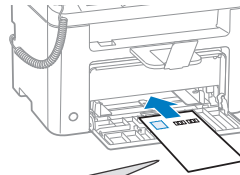
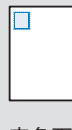
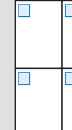
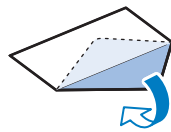
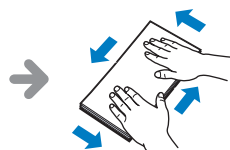
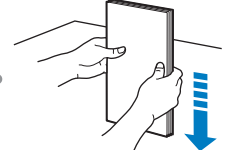
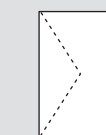
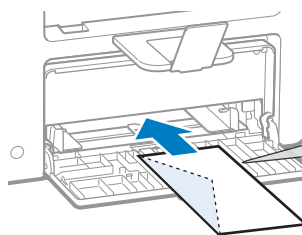
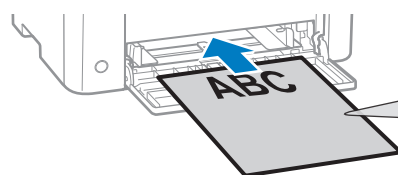
5 小サイズ用紙ガイドを取り外す

6 小サイズ用紙ガイドを真上から差し込み、奥側へ倒す

7 後端の用紙ガイドをスライドさせて、小サイズ用紙ガイドを用紙の長さに隙間なく合わせる

重要

ゆるすぎたりきつすぎたりすると、用紙が正しく送られなかったり、紙づまりの原因になります。

8 用紙カバーを閉める

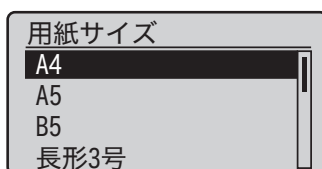
9 セットした用紙のサイズと種類を設定する（→P.23）

はがき、封筒、レターヘッド用紙をセットする

はがき、封筒、レターヘッドやロゴ付き用紙は次のようにセットします。

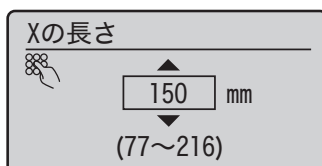
はがき

封筒

レターヘッドやロゴ付きの用紙

用紙のサイズと種類を設定する

給紙カセットにセットした用紙のサイズと種類に合わせて設定を変更してください。

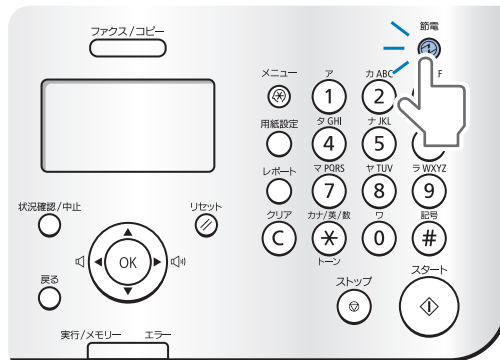
1. [ ](用紙設定)を押す
2. [▲]/[▼]で＜カセット1＞を選択し、[OK]を押す
3. [▲]/[▼]で用紙サイズを選択し、[OK]を押す
   - 用紙サイズを直接入力するには＜ﾕｰｻﾞｰ設定(ｶｽﾀﾑ)＞を選択し、下記の「用紙サイズを手動で入力する方法」を参照して入力します。

4. [▲]/[▼]で用紙の種類を選択し、[OK]を押す

5. [ ](用紙設定)を押して設定を終了する

用紙サイズを手動で入力する方法

1. [▲]/[▼]で＜X＞を選択し、[OK]を押す
2. [▲]/[▼]で横サイズを設定し、[OK]を押す

3. [▲]/[▼]で＜Y＞を選択し、[OK]を押す
4. [▲]/[▼]で縦サイズを設定し、[OK]を押す
5. [▲]/[▼]で＜確定＞を選択し、[OK]を押す

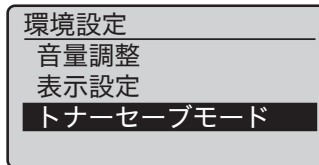
節電（スリープ）モードに切り替える

[ ]（節電）で簡単にスリープモードに切り替えられ、もう一度押すと解除されます。

実行/メモリーランプが点灯または点滅しているときは、作動中またはエラーが発生した状態なので、スリープモードに切り替えられません。

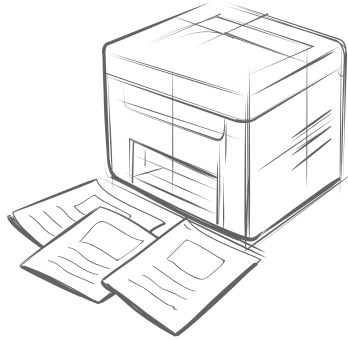
工場出荷時は3分間使用しないと自動的にスリープモードに切り替わる設定になっています。スリープモードの移行時間を変更するには、[ ]（メニュー）➡ ＜**タイマー設定**＞ ➡ ＜**オートスリープタイム**＞を選択して時間を設定します。

トナー節約モードを設定する

コピー時やファクス時にトナーの消費量を節約できます。
印刷結果が薄くなり、細かい線や濃度の薄い印刷が不鮮明になることがあるので、原稿の用途を考慮して設定してください。

1. **[ ]（メニュー）を押す**
2. **[▲]/[▼]で＜環境設定＞を選択し、[OK]を押す**
3. **[▲]/[▼]で＜トナーセーブモード＞を選択し、[OK]を押す**

4. **[▲]/[▼]で＜コピー＞または＜ファクス＞を選択し、[OK]を押す**
5. **[▲]/[▼]で<ON>または<OFF>を選択し、[OK]を押す**
6. **[ ]（メニュー）を押して設定を終了する**

コピー

よく使うコピー機能を説明します。

基本的なコピー

1 原稿をセットする（→P.16）

ゆるすぎたりきつすぎたりすると、用紙が正しく送られなかったり、紙づまりの原因になります。

2 コピーモードに切り替える（→P.13）

3 テンキーでコピー部数（1 ～ 99）を入力する

- コピー部数を修正するときは、[Ⓒ]（クリア）を押します。

```
ｺﾋﾟｰ開始：ｽﾀｰﾄｷｰ
 100% ❶ A4        01
濃度：±0
原稿の種類：文字/写真
倍率：100%
```

4 [ ]（スタート）を押してコピーする

実行中のコピーを中止するには

[ ]（ストップ）を2回押します。

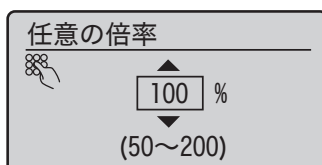
拡大/縮小してコピーする

パーセントで任意の倍率を選択、または直接入力して指定できます。

1 原稿をセットする(→P.16)

2 コピーモードに切り替える(→P.13)

3 [▲]/[▼]で<**倍率**>を選択し、[**OK**]を押す

4 テンキーで倍率を入力する

5 [ ](スタート)を押してコピーする

画質を調整してコピーする

濃度と原稿の種類の設定の相互関連について
濃度を<**自動濃度**>に設定すると、原稿の種類は自動的に<**文字**>が適用されます。

濃度を調整する

原稿より薄くまたは濃く調整できます。

1 原稿をセットする(→P.16)

2 コピーモードに切り替える(→P.13)

3 [▲]/[▼]で<**濃度**>を選択し、[**OK**]を押す

4 [◀]/[▶]で濃度を調節し、[**OK**]を押す

- <**自動濃度**>を選択すると、原稿に最適な濃度でコピーされます。

－: 薄く調整する(明るく)
＋: 濃く調整する(暗く)

5 [ ](スタート)を押してコピーする

原稿の種類を選ぶ

原稿に合わせて選択してください。

1 原稿をセットする(→P.16)

2 コピーモードに切り替える(→P.13)

3 [▲]/[▼]で<**原稿の種類**>を選択し、[**OK**]を押す

4 [▲]/[▼]で原稿の種類に適する設定を選択し、[**OK**]を押す

<**文字**>	文字のみの原稿に適する
<**文字/写真**>	文字と写真が混在している原稿に適する
<**写真**>	写真が大きく配置されている原稿に適する

5 [ ](スタート)を押してコピーする

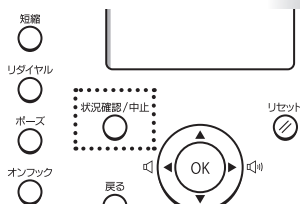
コピージョブを確認/中止する

進行中のコピージョブを確認/中止できます。

1 [ ](状況確認/中止)を押す

2 [▲]/[▼]で<**コピージョブ状況**>を選択し、[**OK**]を押す

3 ジョブ 状況を確認または中止する
- [▲]/[▼]でジョブ状況を確認します。
- ジョブを中止するには、[▲]/[▼]で**<中止>**を選択して、[**OK**]を押します。
- 確認画面で、[◀]で**<はい>**を選択して、[**OK**]を押します。

4 [ ](状況確認/中止)を押して確認を終了する

コピーのデフォルト値を変更する

電源を入れ直したときや、[ ](リセット)を押したときのデフォルト値を設定できます。

1 [ ](メニュー)を押す

2 [▲]/[▼]で＜**コピー設定**＞を選択し、[**OK**]を押す

3 [▲]/[▼]で＜**デフォルト設定の変更**＞を選択し、[**OK**]を押す

4 [▲]/[▼]で設定する項目を選択し、[**OK**]を押す

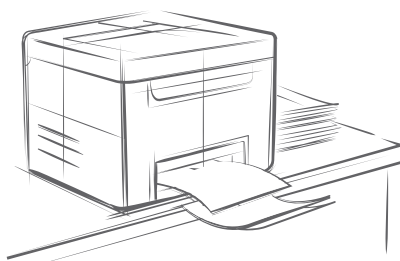
＜部数＞	コピー部数を選択
＜濃度＞	原稿より薄くまたは濃く調節
＜原稿の種類＞	原稿の種類を選択
＜倍率＞	コピーの倍率を選択

5 必要に応じて設定する

6 設定が終わったら[▲]/[▼]で**<確定>**を選択し、[**OK**]を押す

7 [ ](メニュー)を押して設定を終了する

プリント

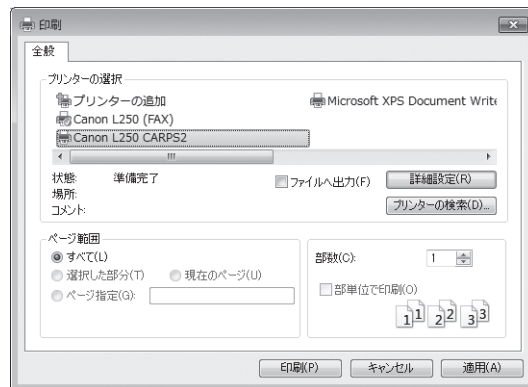
よく使う印刷機能を説明します。

印刷機能をお使いになる前に、スタートアップガイドを参照して、プリンタードライバーをインストールして、本製品をコンピューターと接続しておいてください。プリンタードライバーのインストール方法については、スタートアップガイドを参照してください。

- お使いのアプリケーションソフトウェアに同じ機能があると、機能を同時に使用できません。
- お使いのOS、プリンタードライバーの種類およびバージョンによって画面が異なることがあります。

プリントする

1 プリンターがコンピューターに接続されており、ファクスLドライバーがコンピューターにインストールされていることを確認する

2 アプリケーションソフトウェアでファイルを開いて、印刷画面を表示する

3 本製品のプリンタードライバーを選択する

4 [**印刷**]をクリックして印刷する

実行中のプリントを中止するには

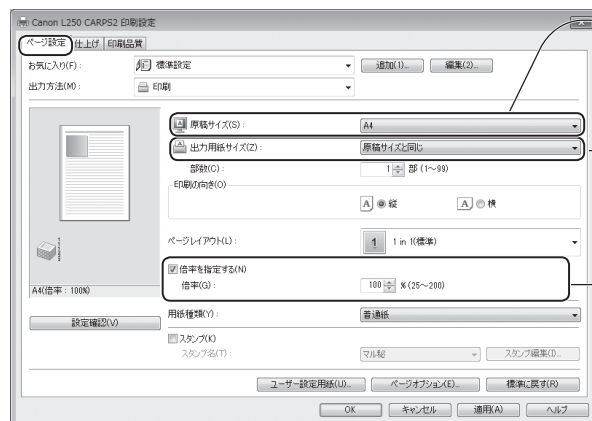
[ⓢ](ストップ)を2回押します。

拡大/縮小してプリントする

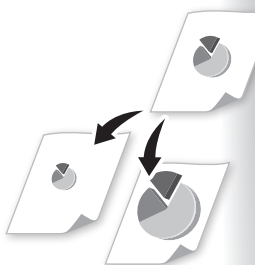
印刷する用紙サイズに合わせて自動的に拡大/縮小したり、パーセントで倍率を指定することができます。

1 アプリケーションソフトウェアでファイルを開いて、印刷画面を表示する

2 本製品のプリンタードライバーを選択して、プロパティ画面を表示する

3 [**ページ設定**]タブを選択し、倍率について設定する

作成したファイルのサイズを選択する

印刷する用紙サイズに自動的に合わせるには用紙サイズを選択する

倍率を直接指定するには[**倍率を指定する**]をチェックし、倍率を選択する

4 [**OK**]をクリックして印刷画面に戻る

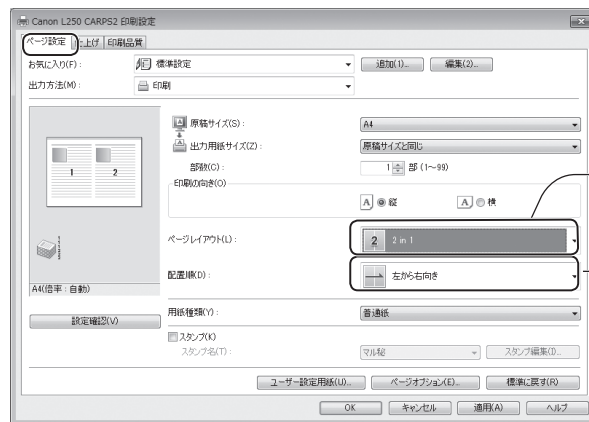
5 [**印刷**]をクリックして印刷する

複数ページを1枚の用紙にプリントする

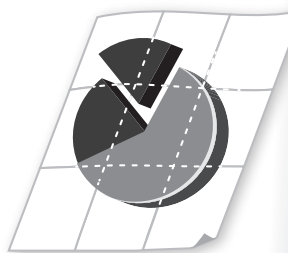
複数（2/4/6/8/9/16）のページを用紙1枚に配置して印刷できます。内容を見やすくしたり、用紙を節約して保管したいときに便利です。

1 アプリケーションソフトウェアでファイルを開いて、印刷画面を表示する

2 本製品のプリンタードライバーを選択して、プロパティ画面を表示する

3 [**ページ設定**]タブを選択し、ページ数とレイアウトを設定する

4 [**OK**]をクリックして印刷画面に戻る

5 [**印刷**]をクリックして印刷する

本機能をお使いの場合は、拡大/縮小機能は使用できません。

プリント

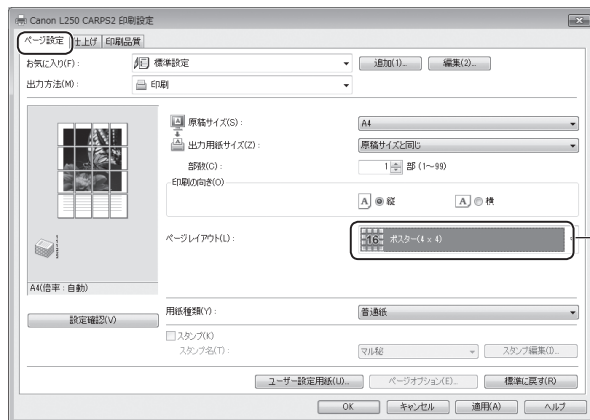
ポスターを作れるようにプリントする

1枚の原稿を拡大して複数枚の用紙に分割印刷し、印刷された印刷物を貼り合わせてポスターを作れます。

1 アプリケーションソフトウェアでファイルを開いて、印刷画面を表示する

2 本製品のプリンタードライバーを選択して、プロパティ画面を表示する

3 ［**ページ設定**］タブを選択し、［**ページレイアウト**］で［**ポスター(N×N)**］を選択する

［**ポスター（N×N）**］を選択する（N×Nは縦×横の分割枚数）

4 ［**OK**］をクリックして印刷画面に戻る

5 ［**印刷**］をクリックして印刷する

6 印刷物を貼り合わせてポスターを作る

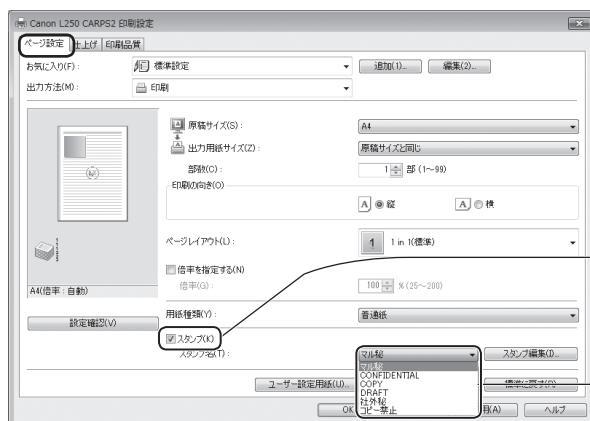
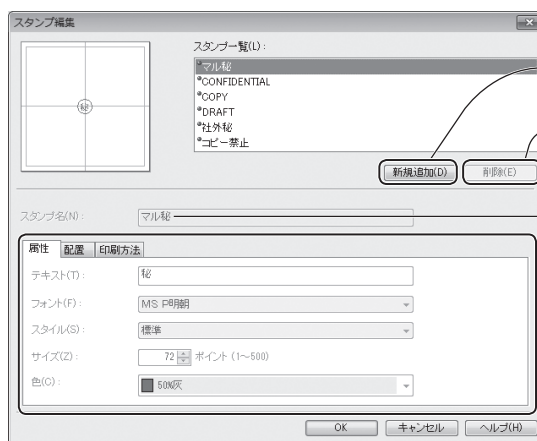
本機能をお使いの場合は、スタンプ印刷、拡大/縮小、複数ページを1枚の用紙に印刷する機能は使用できません。

スタンプを入れてプリントする

COPYやDRAFTなどのスタンプ用テキストを重ね合わせて印刷できます。

1 アプリケーションソフトウェアでファイルを開いて、印刷画面を表示する

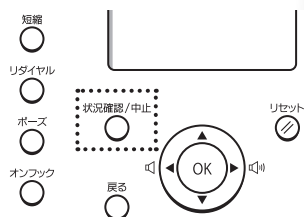
2 本製品のプリンタードライバーを選択して、プロパティ画面を表示する

3 ［**ページ設定**］タブを選択し、スタンプについて設定する

4 スタンプ用の文字を直接作るには、［**スタンプ編集**］をクリックし、文字を編集してから［**OK**］をクリックする

5 ［**OK**］をクリックして印刷画面に戻る

6 ［**印刷**］をクリックして印刷する

スタンプは、あらかじめ登録されているスタンプを除き最大50個まで追加登録できます。

プリントジョブを確認/中止する

進行中または待機中のプリントジョブを確認/中止できます。

1 [◯](状況確認/中止)を押す

2 [▲]/[▼]で<プリントジョブ状況>を選択し、[OK]を押す

3 ジョブ状況を確認または中止する

- [▲]/[▼]でジョブ状況を確認します。
- ジョブの詳細情報を確認するには、[**OK**]を押します。
- ジョブを中止するには、詳細情報の画面から[▲]/[▼]で**<中止>**を選択して、[**OK**]を押します。
  確認画面で、[◀]で**<はい>**を選択し、[**OK**]を押します。

4 [◯](状況確認/中止)を押して終了する

ファクス

よく使うファクス機能を説明します。

（→ **P.83**）

受信モードについて、よくある質問を参照できます。

PCファクスについて

PCファクス（ファクスドライバー）を利用すると、コンピューターから直接ファクスを送ることができます。

直接ファクスを送ることで、用紙とトナーを節約でき、ファクスの画質も良くなります。

詳しい内容はe-マニュアルの「PCファクスを使う」を参照してください。

アドレス帳に宛先を登録する

よく使う番号を登録することができます。アドレス帳のワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルに番号を登録すると簡単にダイヤルできます。

- アドレス帳に暗証番号を設定できます。
  [ ]（メニュー）➡<**システム管理設定**>➡<**送信機能の制限**>➡<**アドレス帳の暗証番号**>の手順で選択し、暗証番号を設定します。
- 暗証番号が設定されている場合は、アドレス帳の宛先を登録／編集／削除する際に、暗証番号の入力画面が表示されます。設定した暗証番号を入力し、[**OK**]を押すとアドレス帳の機能が使えます。
- 付属のUser Software CD-ROMに収録されている「Address Book Import/Export Tool」を使って、本製品に登録されているアドレス帳をエクスポートしたり、ファクスLドライバーで編集や作成したアドレス帳をインポートすることができます。

ワンタッチダイヤルを登録する

ワンタッチダイヤルに登録した番号にファクスを送信する方法は「ワンタッチダイヤルを使う」（→P.45）を参照してください。

1 **ファクスモードに切り替え、[ ]（アドレス帳）を押す**

キヤノン01 0123456789
キヤノン02 9876543210
キヤノン03 0011223344
全て あ

- [◀]/[▶]でメニュー画面または登録した番号の検索画面に切り替える
  - :アドレス帳のメニューを表示
  - 全て:登録したすべての番号を表示
  - あ～YZ:登録した番号を名前順に表示
  - :登録した短縮ダイヤル番号を表示
  - :登録したグループダイヤル内件数を表示
  - :登録したワンタッチダイヤル番号を表示

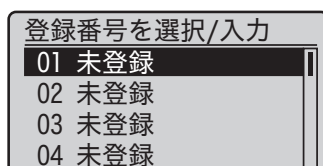
2 **[◀]で< >（アドレス帳のメニュー）を選択する**

3 **[▲]/[▼]で<アドレス帳に新規登録>を選択し、[OK]を押す**

4 **[▲]/[▼]で<ワンタッチ>を選択し、[OK]を押す**

5 **[▲]/[▼]で<ファクス>を選択し、[OK]を押す**

6 **[▲]/[▼]で登録するワンタッチダイヤルキー（01～30）を選択し、[OK]を押す**

- 30のワンタッチダイヤルキーにそれぞれファクス番号を登録できます。

7 **[▲]/[▼]で<名称>を選択し、[OK]を押す**

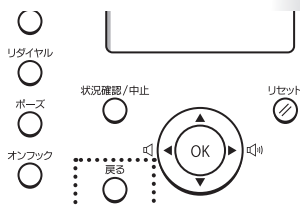
8 名称を入力したあと、[▲]/[▼]で<**確定**>を選択して、[**OK**]を押す

9 [▲]/[▼]で＜**宛先**＞を選択し、[**OK**]を押す

10 宛先のファクス番号を入力したあと、[▲]/[▼]で<**確定**>を選択し、[**OK**]を押す

- 必要に応じて、＜**詳細設定**＞を選択して詳細オプションを選択します。

11 [▲]/[▼]で<**確定**>を選択し、[**OK**]を押す

12 [◯](戻る)を押して登録を終了する

ファクス

短縮ダイヤルを登録する

短縮ダイヤルに登録した番号にファクスを送信する方法は「短縮ダイヤルを使う」(→P.45)を参照してください。

1 ファクスモードに切り替え、[◯](アドレス帳)を押す

2 [◀]で＜ ＞(アドレス帳のメニュー)を選択する

3 [▲]/[▼]で＜**アドレス帳に新規登録**＞を選択し、[**OK**]を押す

4 [▲]/[▼]で＜**短縮ダイヤル**＞を選択し、[**OK**]を押す

5 [▲]/[▼]で＜**ファクス**＞を選択し、[**OK**]を押す

6 [▲]/[▼]で＜**名称**＞を選択し、[**OK**]を押す

7 名称を入力したあと、[▲]/[▼]で<**確定**>を選択して、[**OK**]を押す

8 ［▲］/［▼］で＜**宛先**＞を選択し、［**OK**］を押す

9 宛先のファクス番号を入力したあと、［▲］/［▼］で<**確定**>を選択し、［**OK**］を押す

- 必要に応じて、＜**詳細設定**＞を選択して詳細オプションを選択します。

10 ［▲］/［▼］で＜**短縮ダイヤル**＞を選択し、［**OK**］を押す

11 ［▲］/［▼］で登録する短縮番号（001 ～100）を選択し、［**OK**］を押す

- 100個の短縮番号を登録できます。

12 ［▲］/［▼］で<**確定**>を選択し、［**OK**］を押す

13 ［ ］（戻る）を押して登録を終了する

グループダイヤルを登録する

1つのワンタッチダイヤルまたは短縮ダイヤルに複数の番号をグループとして登録できます。複数の相手先に一斉にファクスを送信するときに便利です。

- グループダイヤルは未登録のワンタッチダイヤルまたは短縮ダイヤルに登録します。グループダイヤル用としてワンタッチダイヤルまたは短縮ダイヤルを空けておいてください。
- グループに登録する番号をあらかじめワンタッチダイヤルまたは短縮ダイヤルに登録しておいてください。

1 ファクスモードに切り替え、［ ］（アドレス帳）を押す

2 ［◀］で＜ ＞（アドレス帳のメニュー）を選択する

3 ［▲］/［▼］で＜**アドレス帳に新規登録**＞を選択し、［**OK**］を押す

4 ［▲］/［▼］でグループダイヤルの登録先を選択し、［**OK**］を押す

- 登録先は、短縮ダイヤルとワンタッチダイヤルがあります。

5 [▲]/[▼]で＜**グループ**＞を選択し、[**OK**]を押す

6 手順4で＜**ワンタッチ**＞を選んだ場合には、[▲]/[▼]でグループを登録するワンタッチダイヤルキーの番号(01 ～30)を選択し、[**OK**]を押す

- ＜**短縮ダイヤル**＞を選んだ場合には、手順7へ進んでください。

7 [▲]/[▼]で＜**名称**＞を選択し、[**OK**]を押す

8 名称を入力し、[▲]/[▼]で**<確定>**を選択し、[**OK**]を押す

9 [▲]/[▼]で＜**宛先**＞を選択し、[**OK**]を押す

10 [▲]/[▼]で＜**追加**＞を選択し、[**OK**]を押す

11 [▲]/[▼]でグループに入れる番号を選択し、[**OK**]を押す

12 続けて追加するには、手順10 ～11を繰り返す

13 追加が終わったら、[▲]/[▼]で**<確定>**を選択し、[**OK**]を押す

14 [◯](戻る)を押して登録を終了する

登録した宛先を編集/削除する

アドレス帳の編集メニューで登録した宛先を編集または削除できます。

1 ファクスモードに切り替え、[ ]（アドレス帳）を押す

2 [◀]で＜ ＞（アドレス帳のメニュー）を選択する

3 [▲]/[▼]で設定項目を選択する

＜アドレス帳の編集＞	• ワンタッチまたは短縮ダイヤルの場合は、登録した名称やファクス番号、ワンタッチまたは短縮ダイヤルを修正できる • グループダイヤルの場合は、登録した名称の修正やグループに登録した番号の削除、新しい番号の追加などができる
＜アドレス帳の詳細＞	詳細情報を確認できる
＜アドレス帳から削除＞	アドレス帳から宛先を削除できる

4 宛先を選択し、[**OK**]を押す

5 修正する項目を選択して修正または削除する

6 [ ]（戻る）を押して終了する

ファクスの画質を調整する

濃度を調整する

原稿より薄くまたは濃く調整できます。

1 原稿をセットする（→P.16）

2 ファクスモードに切り替える（→P.13）

3 [▲]/[▼]で＜**濃度**＞を選択し、[**OK**]を押す

4 [◀]/[▶]で濃度を調整し、[**OK**]を押す

5 宛先を指定してファクスを送信する（→P.44）

原稿に合う解像度を選ぶ

原稿に適切な解像度を選んで送信します。文字が小さくて見にくい原稿は高解像度に設定してください。

1 原稿をセットする（→P.16）

2 ファクスモードに切り替える（→P.13）

3 [▲]/[▼]で<解像度>を選択し、[**OK**]を押す

4 解像度を選択し、[**OK**]を押す

<200 x 100 dpi（ノーマル）>	文字のみの原稿の場合
<200 x 200 dpi（ファイン）>	文字が細かい原稿の場合
<200 x 200 dpi（フォト）>	写真を含む原稿の場合
<200 x 400 dpi（スーパーファイン）>	文字がさらに細かい原稿の場合

5 宛先を指定してファクスを送信する（→P.44）

デフォルト値を変更する

電源を入れ直したときや、[ ](リセット)を押したときのデフォルト値を設定できます。

1 [ ]（メニュー）を押す

2 [▲]/[▼]で<**ファクス送信設定**>を選択し、[**OK**]を押す

3 [▲]/[▼]で<**送信機能設定**>を選択し、[**OK**]を押す

4 [▲]/[▼]で<**デフォルト設定の変更**>を選択し、[**OK**]を押す

5 [▲]/[▼]で設定する項目を選択し、[**OK**]を押す

6 必要に応じて設定する

7 設定が終わったら[▲]/[▼]で<**確定**>を選択し、[**OK**]を押す

8 [ ]（メニュー）を押して設定を終了する

ファクスを送信する

宛先を入力してファクスを送る

1 原稿をセットする（→P.16）

ゆるすぎたりきつすぎたりすると、用紙が正しく送られなかったり、紙づまりの原因になります。

2 ファクスモードに切り替える（→P.13）

3 テンキーで宛先のファクス番号を入力する

送信開始：スタートキー
宛先数：001
=012345678
受信モード：自動受信
解像度：200 x 100 d...

4 [ ]（スタート）を押す

- 読み込みが開始されます。読み込みが完了すると、ファクスが送信されます。

相手先が話し中などでファクス送信ができない場合や送信エラーが発生した場合に2分間隔で2回の自動リダイヤルを実行します。

自動リダイヤルの回数や間隔を変更したり、自動リダイヤルしないように設定するには［ ］（メニュー）➡<**ファクス送信設定**>➡<**送信機能設定**>➡<**自動リダイヤル**>で**<ON>**を選択し、必要に応じて設定します。

送信中のファクスを中止するには

[ ]（ストップ）を2回押します。

ワンタッチダイヤルを使う

ワンタッチダイヤルに登録された宛先に簡単に送信できます。ワンタッチダイヤルにグループが登録されていたら、複数の宛先に同時に送信されます。

1 原稿をセットする（→P.16）

2 ファクスモードに切り替える（→P.13）

3 必要に応じて原稿の画質を調整する（→P.42）

4 ワンタッチダイヤルキーを押す

- ワンタッチダイヤルに登録された番号が表示されます。間違ったキーを押した場合は、[C]（クリア）を押してください。

5 [ ]（スタート）を押してファクスを送信する

ファクス

短縮ダイヤルを使う

短縮ダイヤルに登録された宛先に簡単に送信できます。短縮ダイヤルにグループが登録されていたら、複数の宛先に同時に送信されます。

1 原稿をセットする（→P.16）

2 ファクスモードに切り替える（→P.13）

3 必要に応じて原稿の画質を調整する（→P.42）

4 [ ]（短縮）を押す

5 テンキーを使って、3桁の短縮番号（001 ～100）を入力する

- 短縮ダイヤルに登録した番号が表示されます。間違った場合は、[C]（クリア）を押してください。

6 [ ]（スタート）を押してファクスを送信する

アドレス帳を検索する

アドレス帳に登録した名称で宛先を検索することができます。

1 原稿をセットする（→P.16）

2 ファクスモードに切り替える（→P.13）

3 必要に応じて原稿の画質を調整する（→P.42）

4 [ ]（アドレス帳）を押す

5 [◀]/[▶]で検索範囲を選択する

<**全て**>または名称の並び順を選択する

6 [▲]/[▼]で番号を選択し、[**OK**]を押す

7 [ ]（スタート）を押してファクスを送信する

リダイヤルを使う

宛先をテンキーで手動入力してファクスを送信した場合は、一番最近の番号から3つまでメモリーに保存されます。この保存された番号を使って送信できます。

1 原稿をセットする（→P.16）

2 ファクスモードに切り替える（→P.13）

3 [ ]（リダイヤル）を押す

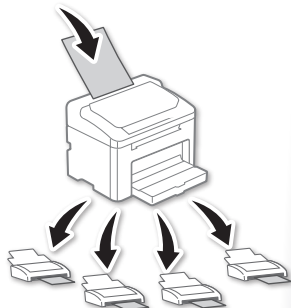
4 [▲]/[▼]で宛先を選択し、[**OK**]を押す

5 [ ]（スタート）を押してファクスを送信する

メモ

- [ ]（オンフック）を押して「プー」という音が聞こえるときに[ ]（リダイヤル）を押すと、テンキーで手動入力した一番最近の宛先が自動的に入力されます。
- 本製品の電源を入れなおした場合は、メモリーに保存された番号が削除されます。

複数の相手先にファクスを送信する（同報送信）

複数の宛先に同じ原稿を一度に送信できます。

1 **原稿をセットする（→P.16）**

2 **ファクスモードに切り替える（→P.13）**

3 **［▲］/［▼］で＜宛先指定＞を選択し、［OK］を押す**

4 **［▲］/［▼］で必要に応じて入力方式を選択する**

＜ファクス（新規）＞	テンキーで番号を直接入力する
＜アドレス帳から指定＞	アドレス帳に登録された番号を検索して入力する
＜短縮ダイヤルから指定＞	短縮ダイヤルに登録された番号を検索して入力する

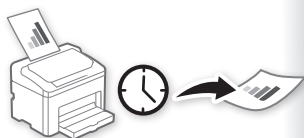
5 **番号を入力し、［OK］を押す**

6 **続けて番号を入力するには、手順3 〜5を繰り返す**

- ＜**ファクス（新規）**＞は10件まで入力できます。
- 登録した番号のリストを確認したり、リストから削除するには、［▲］/［▼］で＜**宛先確認/編集**＞を選択します。

7 **［ ◇ ］（スタート）を押してファクスを送信する**

指定した時刻にファクスを送信する（タイマー送信）

読み込んだ原稿を指定した時刻に送信できます。

1 **原稿をセットする（→P.16）**

2 **ファクスモードに切り替える（→P.13）**

3 **必要に応じて原稿の画質を調整する（→P.42）**

4 **［▲］/［▼］で＜タイマー送信＞を選択し、［OK］を押す**

5 **［▲］/［▼］で<ON>を選択し、［OK］を押す**

6 送信する時刻を入力し、[**OK**]を押す

7 宛先を選択する（→P.44）

8 [◇]（スタート）を押してファクスを送信する

- ファクスは指定した時間に送信されます。

海外にファクスを送る（ポーズの挿入）

海外へファクスを送信する場合は、通信距離が長くて相手にうまくつながらないときがあります。このようなときは、通信中に待ち時間を入れるポーズを番号の間に挿入します。

1 原稿をセットする（→P.16）

2 ファクスモードに切り替える（→P.13）

3 テンキーで国際アクセス番号を入力する

- 国際アクセス番号については、ご契約の電話会社にお問い合わせください。

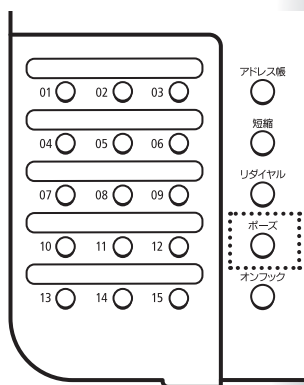
4 [◯]（ポーズ）でポーズを入れる

- ポーズを意味する<**p**>が表示されます。
- ポーズ1つにつき2秒間のポーズ時間が設定されます。ポーズ時間を変更するには、「ポーズ時間セット」（→P.57）を参照してください。
- ポーズを連続して入れる場合は、もう一度[◯]（ポーズ）を押してください。

5 テンキーで国番号、エリア番号、ファクス番号を順に入力する

6 [◯]（ポーズ）でポーズを入れて、[**OK**]を押す

- ファクス番号の後に入る末尾のポーズは、10 秒間固定です。

7 [◇]（スタート）を押してファクスを送信する

電話をかけてからファクスを送信する

以下のような場合は下記の方法で送信してください。

- 原稿を送信する前に相手と話したい場合
- 相手先のファクス機が自動受信できない場合

メモ

この機能を使うには、本製品に外付け電話機またはハンドセットをつなげる必要があります。つながってない環境では、他の電話機を使って通話し、ファクス受信状態への切り替えを依頼します。

1 **原稿をセットする**（→P.16）

2 **ファクスモードに切り替える**（→P.13）

3 **受話器を取る**

- 「プー」という音が聞こえます。

4 **相手のファクス番号を入力する**

5 **相手が電話に出たら、ファクス受信の準備を依頼する**

6 **「ピー」という音が聞こえたら、[ ]（スタート）を押し、受話器を置く**

ファクスを受信する（受信モード）

ファクスの受信には、本製品が自動で応対するものやお客様が手動で応対するものなど、いくつかの方法があります。用途に合わせてファクスの受信方法を選択してください。

（→ P.83）
受信モードについてよくある質問を参照できます。

電話（通話）を使用しますか？

No → **自動受信モード**

「ファクス専用で使用する（自動受信モード）」を参照してください。（→P.51）

Yes ↓

留守番電話機能を使用しますか？

Yes → 留守番電話機をつなげる → **留守TEL接続モード**

「留守番電話機をつなげて使用する（留守TEL接続モード）」を参照してください。（→P.52）

No ↓

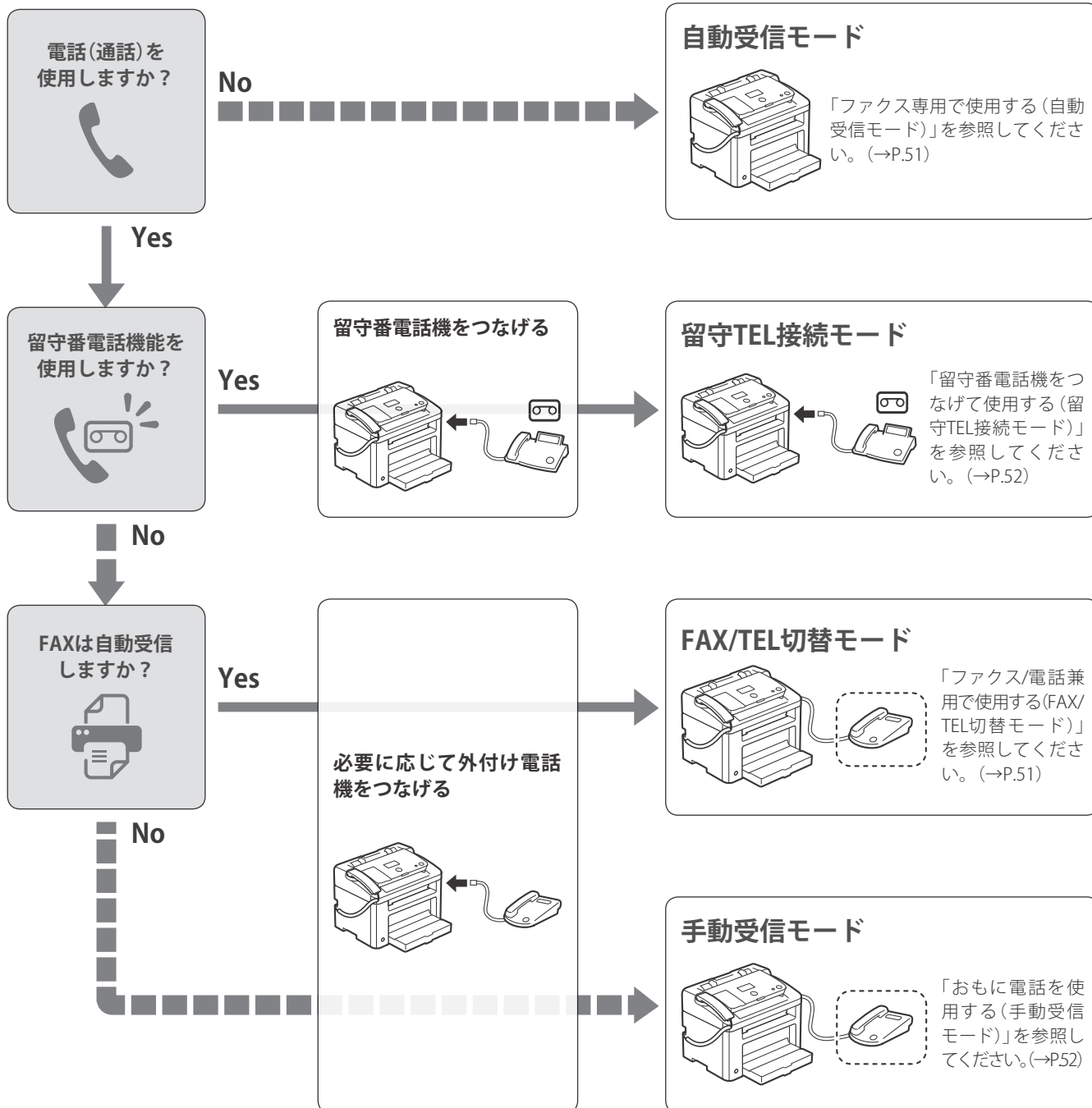
FAXは自動受信しますか？

必要に応じて外付け電話機をつなげる

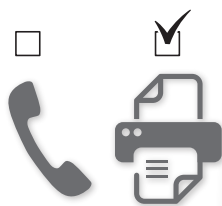
Yes → **FAX/TEL切替モード**

「ファクス/電話兼用で使用する（FAX/TEL切替モード）」を参照してください。（→P.51）

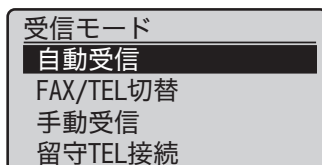
No → **手動受信モード**

「おもに電話を使用する（手動受信モード）」を参照してください。（→P.52）

- 各モードの詳しい動作については、e-マニュアルの「受信モードについて」を参照してください。
- 接続する電話機の種類によっては、発信や着信が正常にできないことがあります。
  ファクス機能付きの外付け電話機を接続する場合は、外付け電話機のファクス自動受信を無効にしてください。
- <**受信モード**>が自動受信モードまたはFAX/TEL切替モードの場合は、着信があったときにハンドセットまたは外付け電話機を鳴らすかどうかを設定できます。また、鳴らす回数も設定できます。
  [ ]（メニュー）➡<**ファクス受信設定**>➡<**ファクス設定**>➡<**着信呼出**>で設定します。

ファクス専用で使用する（自動受信モード）

受信モードを＜**自動受信**＞に設定して使用してください。

1 ファクスモードに切り替える（→P.13）

2 ［▲］/［▼］で＜**受信モード**＞を選択し、［**OK**］を押す

3 ［▲］/［▼］で＜**自動受信**＞を選択し、［**OK**］を押す

ファクスまたは電話の受信時

着信音が2回鳴ったあと、ファクスの場合は自動的に原稿を受信します。電話の場合は、相手にはファクス信号音が聞こえます。

着信音の回数を変更できます。
［ ］（メニュー）➡＜**ファクス受信設定**＞➡＜**ファクス設定**＞➡＜**着信呼出**＞➡**<ON>**の手順で選択し、呼出の回数を変更してください。（→P.59）

ファクス/電話兼用で使用する（FAX/TEL切替モード）

受信モードを＜**FAX/TEL切替**＞に設定して使用してください。

1 ファクスモードに切り替える（→P.13）

2 ［▲］/［▼］で＜**受信モード**＞を選択し、［**OK**］を押す

3 ［▲］/［▼］で＜**FAX/TEL切替**＞を選択し、［**OK**］を押す

4 必要に応じて詳細設定をする

＜呼出開始時間＞	着信してから着信音を鳴らす前に、本製品がファクスかどうかを検出する時間を設定する（4秒～30秒）
＜呼出時間＞	着信音を鳴らす時間を設定する（15秒～300秒）
＜音声応答＞	応答メッセージを流すかどうかを設定する • **<OFF>**：相手方には応答メッセージを流さない • **<ON>**：相手方に応答メッセージを流す
＜呼出後の動作＞	呼び出し中に受話器を取らなかったときの動作を設定する • **<終了>**：通信を切断する • **<受信>**：ファクスを受信する

5 設定が終わったら［▲］/［▼］で**<確定>**を選択し、［**OK**］を押す

ファクスまたは電話の受信時

着信音が2回鳴ったあと、ファクスか電話かを自動判定します。ファクスの場合には自動的にファクスを受信します。電話の場合には着信音が一定時間鳴り続けるので、つながっている外付け電話機やハンドセットの受話器を取って通話してください。＜**音声応答**＞を＜**ON**＞に設定した場合、応答メッセージを相手方に流します。

留守番電話機をつなげて使用する（留守TEL接続モード）

受信モードを＜**留守TEL接続**＞に設定して使用してください。

1 ファクスモードに切り替える（→P.13）

2 ［▲］/［▼］で＜**受信モード**＞を選択し、［**OK**］を押す

3 ［▲］/［▼］で＜**留守TEL接続**＞を選択し、［**OK**］を押す

ファクスまたは電話の受信時

つながった留守番電話機で受信したあと、相手がファクスの場合は、自動的にファクスを受信します。相手が電話の場合は、留守番電話機が留守番応答メッセージを流し、相手方の伝言を録音します。

あらかじめ、留守番電話機で自動応答するまでの着信音の回数（1~2回を推奨）をセットし、留守番応答メッセージも録音しておいてください。

おもに電話を使用する（手動受信モード）

受信モードを＜**手動受信**＞に設定して使用してください。

1 ファクスモードに切り替える（→P.13）

2 ［▲］/［▼］で＜**受信モード**＞を選択し、［**OK**］を押す

3 ［▲］/［▼］で＜**手動受信**＞を選択し、［**OK**］を押す

ファクスまたは電話の受信時

着信音が鳴り続けるので、つながっている外付け電話機やハンドセットの受話器を取って通話してください。相手がファクスだと「ピー」という音が聞こえます。以下の「受話器を取ったとき「ピー」という音が聞こえたら」を参照して、ファクス受信に切り替えてください。

受話器を取ったとき「ピー」という音が聞こえたら

着信音が鳴っているときに、ハンドセットまたは外付け電話機の受話器を取ると、「ピー」という音が聞こえることがあります。この音は相手がファクス送信中であることを示します。次の手順に従って、手動でファクス受信に切り替えてください。

ハンドセットの受話器を取った場合

1 **受話器を取って「ピー」という音が聞こえたら、ファクスモードに切り替える**

2 **[▲]/[▼]で＜受信スタート＞を選択し、[OK]を押す**

3 **受話器を置く**

外付け電話機の受話器を取った場合

1 **受話器を取って「ピー」という音が聞こえたら、外付け電話機で [②] [⑤]（リモート受信ID）を押す**

2 **受話器を置く**

リモート受信IDは変更できます。
[ ]（メニュー）➡＜**ファクス受信設定**＞➡＜**ファクス設定**＞➡＜**リモート受信**＞➡**<ON>**の手順で選択し、リモート受信IDを変更してください。

メモリーを活用してファクスを受信する

ファクスをすぐに印刷しないでメモリーに保存しておくと、受信したファクスの相手を確認し、ファクス文章を出力したり、別の宛先に転送したりできます。

メモリー受信状態に切り替える

1 **[ ]（メニュー）を押して、[▲]/[▼]で＜システム管理設定＞を選択し、[OK]を押す**

2 **[▲]/[▼]で＜通信管理設定＞を選択し、[OK]を押す**

3 **[▲]/[▼]で＜メモリー受信設定＞を選択し、[OK]を押す**

4 **[▲]/[▼]で<ON>を選択し、[OK]を押す**

5 **必要に応じて詳細設定をする**

<table>
<tr><td>＜メモリー受信設定暗証番号＞</td><td>メモリー受信設定が他人から変更されないようにしたいときに、7桁の暗証番号を設定する

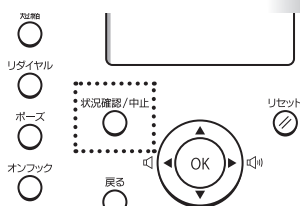
暗証番号には「0」～「9」の数字が使用できます。ただし、「0」だけの数字を暗証番号として登録することはできません。</td></tr>
<tr><td>＜レポートプリント＞</td><td>メモリー受信状態でファクスを受信したら、受信結果レポートを印刷するように設定する
• <OFF>：レポートプリントを印刷しない
• <ON>：レポートプリントを印刷する

レポートを印刷するには、＜受信結果レポート＞も<ON>にする必要があります。[ ]（レポート）➡ ＜仕様設定＞ ➡ ＜受信結果レポート＞
※ デフォルト値は<OFF>です。</td></tr>
<tr><td>＜メモリー受信時刻設定＞</td><td>特定の時間帯だけメモリー受信するように設定する。開始時刻になると、メモリー受信状態に切り替わる。終了時刻になると、メモリーに受信したファクスが自動的に印刷され、メモリー受信状態が解除される</td></tr>
</table>

6 **設定が終わったら[▲]/[▼]で<確定>を選択し、[OK]を押す**

7 **[ ]（メニュー）を押して終了する**

メモリーの内容を確認／削除する

メモリーに受信したファクスの相手を確認し、印刷する必要がないファクス文書は削除したり、別の宛先に転送したりできます。

1 **[ ]（状況確認/中止）を押す**

2 **[▲]/[▼]で＜ファクスジョブ状況/履歴＞を選択し、[OK]を押す**

3 **[▲]/[▼]で＜受信ジョブ状況＞を選択し、[OK]を押す**

4 **[▲]/[▼]で確認したいファクスのジョブを選択し、[OK]を押す**

5 **詳細情報を確認する**

- 確認だけをして終了するときは[ ]（状況確認/中止）を押してください。

- 削除するときは、[▲]/[▼]で**<削除>**を選択したあと、[◀]/[▶] で**<はい>**を選択し、[**OK**]を押してください。
- 転送するときは、[▲]/[▼]で**<転送>**を選択したあと、宛先の番号を入力し、[ ]（スタート）を押してください。

メモリーの内容をプリントする

オフに切り替えると、メモリーに保存されているファクス文書がすべて印刷されます。

本製品では、特定のファクス文書を選んで印刷する機能がないため、不要なファクス文書は先に削除しておいてください。

1. [ ](メニュー)を押して[▲]/[▼]で<**システム管理設定**>を選択し、[**OK**]を押す
2. [▲]/[▼]で<**通信管理設定**>を選択し、[**OK**]を押す
3. [▲]/[▼]で<**メモリー受信設定**>を選択し、[**OK**]を押す
4. [▲]/[▼]で<**OFF**>を選択し、[**OK**]を押す
   - メモリーに保存されているファクス文書が印刷されます。
5. [ ](メニュー)を押して終了する

ファクス

ファクスジョブを確認/中止する

進行中または待機中のファクスジョブを確認/中止できます。

1. [ ](状況確認/中止)を押す
2. [▲]/[▼]で<**ファクスジョブ状況/履歴**>を選択し、[**OK**]を押す
3. [▲]/[▼]で<**送信ジョブ状況**>または<**受信ジョブ状況**>を選択し、[**OK**]を押す
4. ジョブ状況を確認または中止する
   - [▲]/[▼]でジョブ状況を確認します。
   - ジョブの詳細情報を確認するには、[**OK**]を押します。
   - <**送信ジョブ状況**>の場合は、詳細情報の画面から[▲]/[▼]で<**中止**>を選択できます。
   - <**受信ジョブ状況**>の場合は、詳細情報の画面から[▲]/[▼]で<**削除**>または<**転送**>を選択できます。(→P.54)
5. [ ](状況確認/中止)を押して終了する

ファクス設定を変更する

ファクス使用用途に合わせてファクスの送信または受信の設定を変更できます。

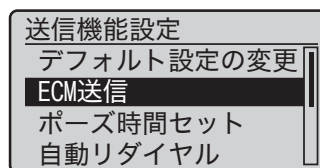
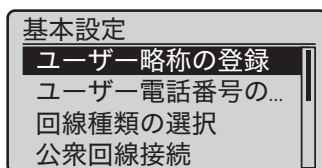
ファクス送信設定を変更する

1 [ ](メニュー)を押す

2 [▲]/[▼]で＜**ファクス送信設定**＞を選択し、[**OK**]を押す

3 [▲]/[▼]で＜**基本設定**＞または＜**送信機能設定**＞を選択し、[**OK**]を押す

4 [▲]/[▼]で設定項目を選択し、[**OK**]を押す

- 「ファクスの送信設定の項目」の説明を参照してください。

5 設定値を選択し、[**OK**]を押す

6 [ ](メニュー)を押して設定を終了する

ファクスの送信設定の項目

設定項目	設定値 太字：工場出荷時の設定	項目の説明と設定の用途
＜ユーザー略称の登録＞ **＜ユーザー電話番号の登録＞**		ユーザー名称（会社や個人名など）とファクス番号を登録します。 登録した名称と番号は、発信元記録として相手先の記録紙に印刷されます。
＜回線種類の選択＞	**自動** 手動 - ダイヤル20 PPS、ダイヤル10 PPS、**プッシュ**	ファクスの送信ができない場合は、回線の種類を手動で設定してみてください。 メモ　電話回線の種類がわからないときは、ご利用の電話会社にお問い合わせください。
＜公衆回線接続＞	**直接接続** アダプタ接続1 アダプタ接続2	受信モードが＜**FAX/TEL切替**＞で、外付け電話機またはハンドセットをつなげて使用する場合に電話をかけられなかったり、発信音が鳴らなかったりしたときは＜**アダプタ接続1**＞または＜**アダプタ接続2**＞に変更してみてください。
＜オフフックアラーム＞	**OFF** ON - オフフックアラーム音量：**1**～5	外付け電話機またはハンドセットの受話器が外れているときに警告音を鳴らすかどうかを設定します。また、警告音の音量を設定できます。
＜発信元記録＞	つけない **つける** - 印字位置：画像の内側、**画像の外側** - 電話番号マーク：**FAX**,TEL	相手先のファクス文書に発信元記録をつけるかどうかを設定します。発信元記録は送信文書の上部に印刷されます。こちらのファクス番号や名前などが印刷されるので、相手先で誰から送信されてきた文書かを確認できます。 送信の日付／時刻　電話番号マーク　ファクス／電話番号（ユーザー電話番号）　発信元略称（ユーザー略称）　ページ数 2011 01/01 02:07 PM FAX 123XXXXXXX CANON P.0001
＜デフォルト設定の変更＞		よく使う設定値をデフォルト値として設定できます。
＜ECM 送信＞	OFF **ON**	ECM（エラー訂正モード）とは、ファクス通信中のエラーを自動的に検知し修正する機能です。ECM 機能を使うと、電話回線の状態が悪い場合でも送信エラーを軽減できます。
＜ポーズ時間セット＞	1 ～**2** ～15（秒）	相手先ファクス番号に入れるポーズの長さを設定します。
＜自動リダイヤル＞	OFF **ON** - リダイヤル回数：1 ～**2** ～15（回） - リダイヤル間隔：**2** ～99（分） - 送信エラー時リダイヤル：OFF, **ON**	自動リダイヤルは、ファクス送信時に相手先が話し中などで送信できない場合や送信エラーが発生したときに、自動的にリダイヤルしてファクスを再送信する機能です。 リダイヤルする回数や間隔などを設定できます。
＜送信前のダイヤルトーン確認＞	OFF **ON**	ファクスを送信するときに、発信音を確認してからダイヤルするかどうかを設定します。

ファクス送信機能を制限する

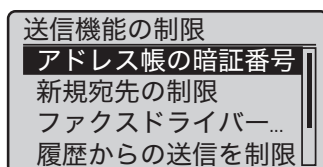
1 [ ](メニュー)を押す

2 [▲]/[▼]で<**システム管理設定**>を選択し、[**OK**]を押す

3 [▲]/[▼]で<**送信機能の制限**>を選択し、[**OK**]を押す

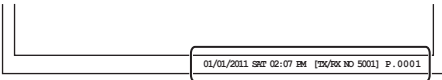
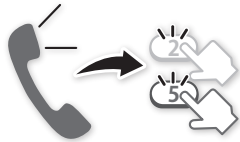
4 [▲]/[▼]で設定項目を選択し、[**OK**]を押す

- 「ファクスの送信機能制限の項目」の説明を参照してください。

送信機能の制限
アドレス帳の暗証番号
新規宛先の制限
ファクスドライバー...
履歴からの送信を制限

5 設定値を選択し、[**OK**]を押す

6 [ ](メニュー)を押して設定を終了する

ファクスの送信機能制限の項目

設定項目	設定値 太字:工場出荷時の設定	項目の説明と設定の用途
<アドレス帳の暗証番号>		アドレス帳に暗証番号を設定します。 暗証番号を設定すると、アドレス帳の宛先を登録/編集/削除する際に設定した暗証番号を入力する必要があります。
<新規宛先の制限>	**OFF** ON	指定できる宛先を登録済みのワンタッチダイヤルと短縮ダイヤルに限定します。制限機能を**<ON>**に設定すると、以下の操作はできなくなります。 • テンキーを使って宛先を指定する • アドレス帳/ワンタッチダイヤル/短縮ダイヤルに新しい宛先を登録する • アドレス帳/ワンタッチダイヤル/短縮ダイヤルに登録済みの宛先を変更する
<ファクスドライバーからの送信を許可>	OFF **ON**	ファクスドライバーを使ったコンピューターからのファクス送信を許可するかどうかの設定をします。
<履歴からの送信を制限>	**OFF** ON	[ ](リダイヤル)を押して、履歴から宛先を選択して送信する機能を制限するかどうかを設定します。
<ファクス番号入力時の確認入力>	**OFF** ON	ファクス送信の宛先指定時に、ファクス番号の再入力画面を表示させるかどうかを設定します。ファクス番号を2度入力することで、指定した宛先に誤りがないことを確認してから原稿を送信することができます。
<同報送信の制限>	**OFF** 同報送信の確認 同報送信不可	ファクスを送信するときに、複数の宛先に送信する場合の制限を設定します。<**同報送信の確認**>を選択すると、送信するときに確認画面が表示されます。<**同報送信不可**>を選択すると同報送信ができません。

ファクス受信設定を変更する

1 [ ]（メニュー）を押す

2 [▲]/[▼]で＜**ファクス受信設定**＞を選択し、[**OK**]を押す

3 [▲]/[▼]で＜**受信機能設定**＞または＜**ファクス設定**＞を選択し、[**OK**]を押す

4 [▲]/[▼]で設定項目を選択し、[**OK**]を押す

- 「ファクスの受信設定の項目」の説明を参照してください。

5 設定値を選択し、[**OK**]を押す

6 [ ]（メニュー）を押して設定を終了する

ファクス

ファクスの受信設定の項目

設定項目	設定値 太字：工場出荷時の設定	項目の説明と設定の用途
＜画像縮小＞	OFF **ON** - 縮小率：**自動**、97%、95%、90%、75% - 縮小方向：縦横、**縦のみ**	受信文書の画像を、セットしてある記録紙のサイズに合わせて自動的に縮小したり、決められた倍率で縮小したりすることができます。
＜受信情報記録＞	**つけない** つける	受信文書を印刷するとき、受付日、受付曜日、受付時刻、受付番号、ページ番号を、原稿のいちばん下に印刷するかどうかを設定できます。 01/01/2011 SAT 02:07 PM [TX/RX NO 5001] P.0001
＜トナー残りわずか時の印字継続＞	**しない** する	トナーカートリッジが残りわずかになった場合に、受信中の文書の印刷を継続するかどうかを設定します。
＜ECM 受信＞	OFF **ON**	ECM（エラー訂正モード）とは、ファクス通信中のエラーを自動的に検知し修正する機能です。ECM機能を使うと、電話回線の状態が悪い場合でも受信エラーを軽減できます。
＜着信呼出＞	OFF **ON** - 呼出回数：1～**2**～99（回）	＜**自動受信**＞またはFAX/TEL切替モードで外付け電話機またはハンドセットを鳴らすかどうかを設定します。また、呼び出し回数も設定できます。 設定した呼び出し回数分の着信音が鳴った後は、着信がファクスのときは自動的に受信を開始します。電話のときは、＜**受信モード**＞が＜**FAX/TEL切替**＞の場合のみ、再度外付け電話機またはハンドセットの着信音が鳴ります。

設定項目	設定値 太字：工場出荷時の設定	項目の説明と設定の用途
＜リモート受信＞	OFF **ON** - リモート受信ID： 00～**25**～99	外付け電話機を接続している場合は、電話機によるリモート受信をするかどうかの設定をします。**<ON>**にした場合は、受話器を取ったときに「ピー」という音が聞こえたら、お使いの電話機のダイヤルでリモート受信IDを押します。また、リモート受信IDも設定できます。
＜自動受信切替＞	**OFF** ON - 呼出秒数： 1～**15**～99（秒）	手動受信モードで一定時間電話に出ないときに、自動的にファクスを受信するかどうかを設定します。また、切り替える時間の変更もできます。

ファクスの通信管理設定を変更する

1 [ ]（メニュー）を押す

2 [▲]/[▼]で＜**システム管理設定**＞を選択し、[**OK**]を押す

3 [▲]/[▼]で＜**通信管理設定**＞を選択し、[**OK**]を押す

4 [▲]/[▼]で設定項目を選択し、[**OK**]を押す

- ＜**ファクス設定**＞を選択した場合は、詳細項目を選択できます。
- 「ファクスの通信管理設定の項目」の説明を参照してください。

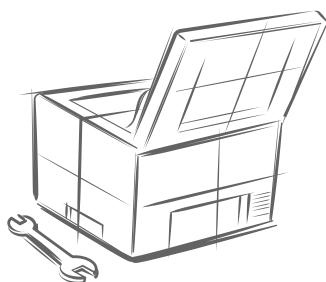
5 設定値を選択し、[**OK**]を押す

6 [ ]（メニュー）を押して設定を終了する

ファクスの通信管理設定の項目

設定項目	設定値 太字：工場出荷時の設定	項目の説明と設定の用途
<送信スタートスピード> <受信スタートスピード>	**33600 bps** 14400 bps 9600 bps 7200 bps 4800 bps 2400 bps	回線の状態が悪く、送信または受信が始まるまでに時間がかかるときは、送信または受信開始スピードを変更します。
<メモリー受信設定>	**OFF** ON - メモリー受信設定暗証番号：7桁の番号 - レポートプリント：OFF、**ON** - メモリー受信時刻設定：**指定しない**、指定する	受信した文書は通常すぐに印刷されますが、印刷しないでいったんメモリーに保存しておくことができます。保存した文書はいつでも好きなときに印刷したり、不要な場合は消去したりして、用紙を節約することができます。

メンテナンスと管理

本製品のお手入れやトナーカートリッジの交換方法と、本製品の管理や機能活用に役立つレポート/リストの活用方法を説明します。

日常のお手入れ

本体外部と内部、フィーダーと定着器の部分は定期的に清掃してください。

本体外部と内部のお手入れ

定期的に製品本体の外部と内部を清掃して、トナーの粉や紙ぼこりを取り除いてください。

安全のため、お手入れの前には電源スイッチを切り、本製品につながっているすべてのケーブルを抜いてください。清掃が終わったら本製品に水分が残らないように十分に乾燥させてからケーブルをつなぎ、電源を入れてください。

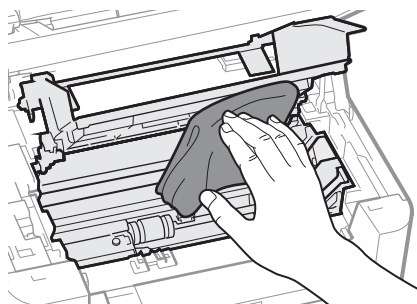
本体外部のお手入れ

1. 電源スイッチを切ってから、すべてのケーブルを抜く
2. フィーダーに原稿がセットされている場合は、原稿を取り出す
3. 水または薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布をかたく絞って、本体の表面を拭く

4. 本体外部が十分に乾燥するまでしばらく待つ
5. すべてのケーブルを元通りに接続してから、電源スイッチを入れる

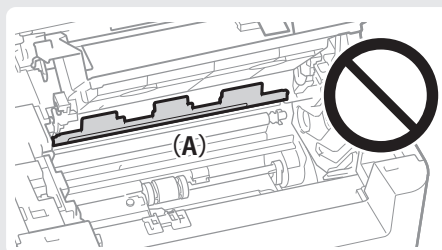
本体内部のお手入れ

1. 電源スイッチを切ってから、すべてのケーブルを抜く
2. フィーダーに原稿がセットされている場合は、原稿を取り出す
3. 上部ユニットとトナーカバーを順に開けて、トナーカートリッジを取り出す

4 清潔で柔らかい、乾いた、糸くずの出ない布で、内部からトナーの粉や紙ぼこりを取り除く

5 トナーカートリッジを取り付ける

6 トナーカバーと上部ユニットを順に閉める

7 すべてのケーブルを元通りにつなげてから、電源スイッチを入れる

注意

上部ユニットをおろすとき
指を挟まないように注意してください。

定着器(A)には触れない
使用中に高温になり、やけどの原因になることがあります。

衣服や手がトナーで汚れないように注意する
衣服や手が汚れた場合は、直ちに冷水で洗い流してください。温水で洗うと汚れがとれなくなることがあります。

定着器のお手入れ

印刷した用紙に黒い線が付いたりトナーが付いたりしたときは、定着器のクリーニングを行ってください。

1 [ ](メニュー)を押す

2 [▲]/[▼]で<**調整/メンテナンス**>を選択し、[**OK**]を押す

3 [▲]/[▼]で<**定着器のクリーニング**>を選択し、[**OK**]を押す

4 給紙カセットにA4サイズの普通紙をセットして、[**OK**]を押す
- クリーニングが開始されます。(約120秒)

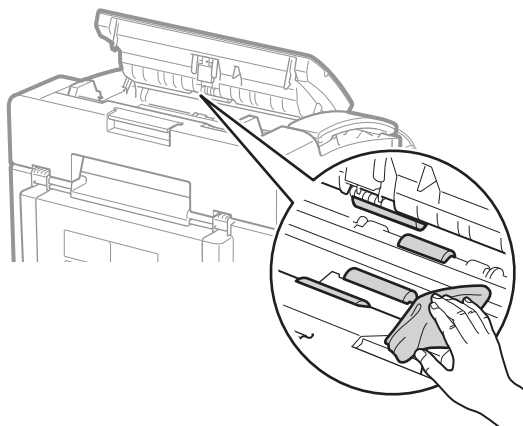
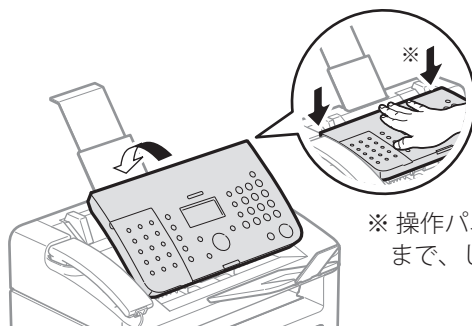
5 クリーニングが終わったら[ ](メニュー)を押して画面を閉じる

フィーダーのお手入れ

原稿にないしみや点などの汚れが付いたら、フィーダー部分を清掃してください。

1 電源スイッチを切ってから、すべてのケーブルを抜く

2 フィーダーに原稿がセットされている場合は、原稿を取り出す

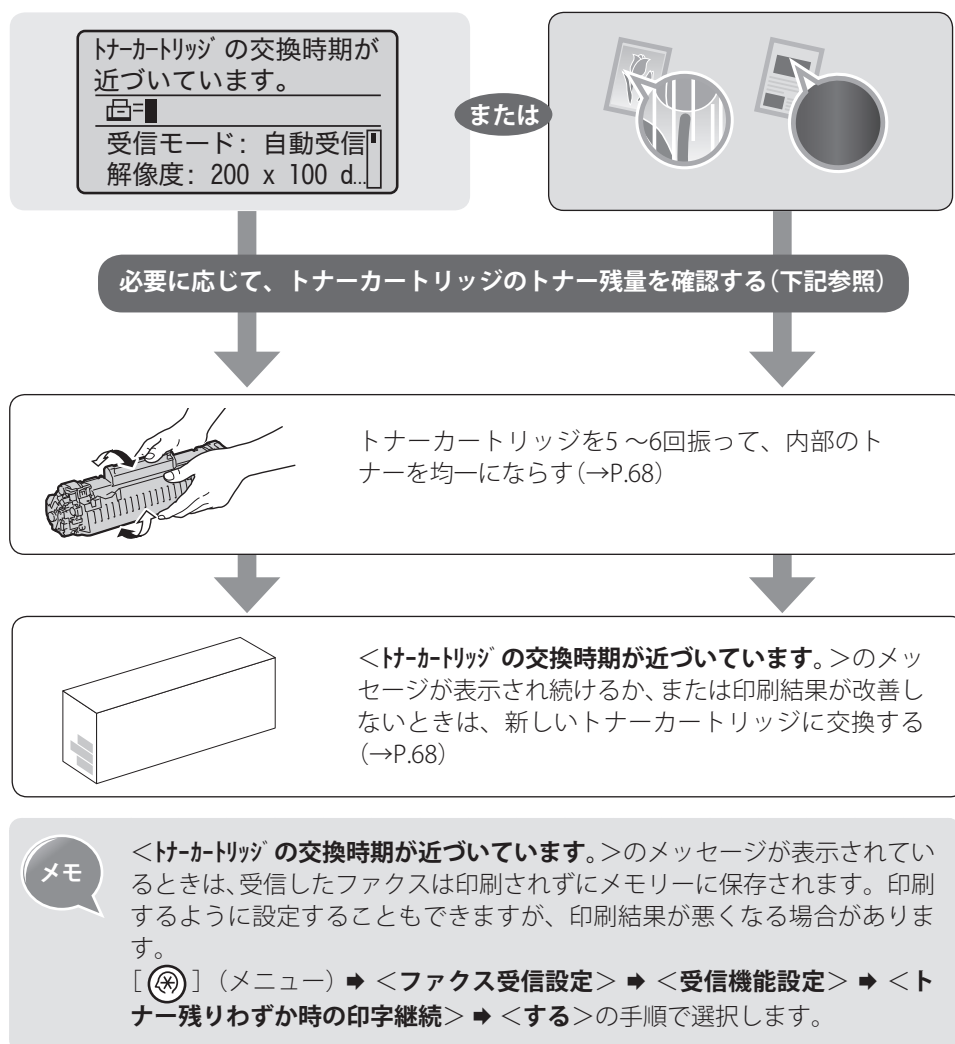
3 操作パネル部を持ち上げ、水を含ませた布をかたく絞って、ローラー部分を拭いたあと、乾いた柔らかい布で拭く

本製品のお手入れをするときに、ティッシュペーパー、ペーパータオルなどは使わないでください。静電気発生の原因になることがあります。

4 操作パネル部がロックされるまでおろす

5 すべてのケーブルを元通りにつなげてから、電源スイッチを入れる

トナーカートリッジを確認/交換する

トナーカートリッジは消耗品です。寿命に近づくと、メッセージが表示されたり、印刷結果に白いすじが入ったり、ムラが出たりします。トナーカートリッジの残量をチェックして、必要に応じて交換してください。

<ﾄﾅｰｶｰﾄﾘｯｼﾞ **の交換時期が近づいています。**>のメッセージが表示されているときは、受信したファクスは印刷されずにメモリーに保存されます。印刷するように設定することもできますが、印刷結果が悪くなる場合があります。

［ ］（メニュー）➡ <**ファクス受信設定**> ➡ <**受信機能設定**> ➡ <**トナー残りわずか時の印字継続**> ➡ <**する**>の手順で選択します。

トナーの残量を確認する

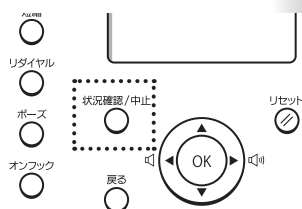
1 ［ ］（状況確認/中止）を押す

2 ［▲］/［▼］で<**デバイス状況**>を選択し、［**OK**］を押す

3 ［▲］/［▼］で<**トナー残量**>を選択し、［**OK**］を押す

4 トナー残量を確認する

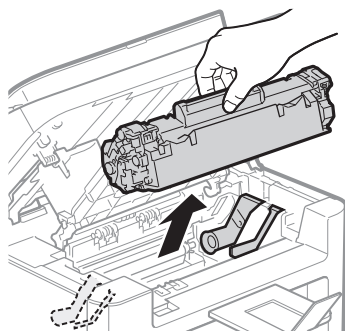
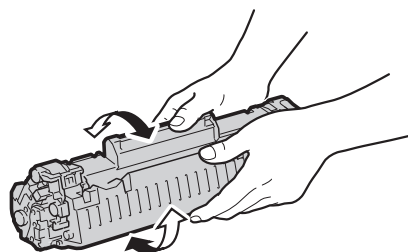
- トナー残量が3段階で表示されます。（<**良好**>、<**少ない**>、<**残りわずか**>）

5 ［ ］（状況確認/中止）を押して画面を閉じる

トナーを節約して交換時期をのばす

トナーカートリッジを交換する前に内部のトナーを均一にならすように振ると、トナーが完全になくなるまで、しばらくの間印刷できることがあります。

1 上部ユニットとトナーカバーを順に開けて、トナーカートリッジを取り出す

注意

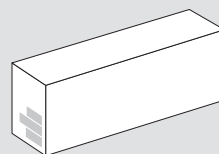
肌や衣服がトナーで汚れたら、直ちに冷水で洗い流してください。温水で洗うと、汚れがとれなくなることがあります。

2 トナーカートリッジを5 ～6回振って、内部のトナーを均一にならす

3 トナーカートリッジを取り付け、トナーカバーと上部ユニットを順に閉める

トナーカートリッジを交換する

トナーカートリッジを交換する時期になったら、本製品をお買い求めの販売店、またはお近くのキヤノン販売店にてお買い求めください。

メモ

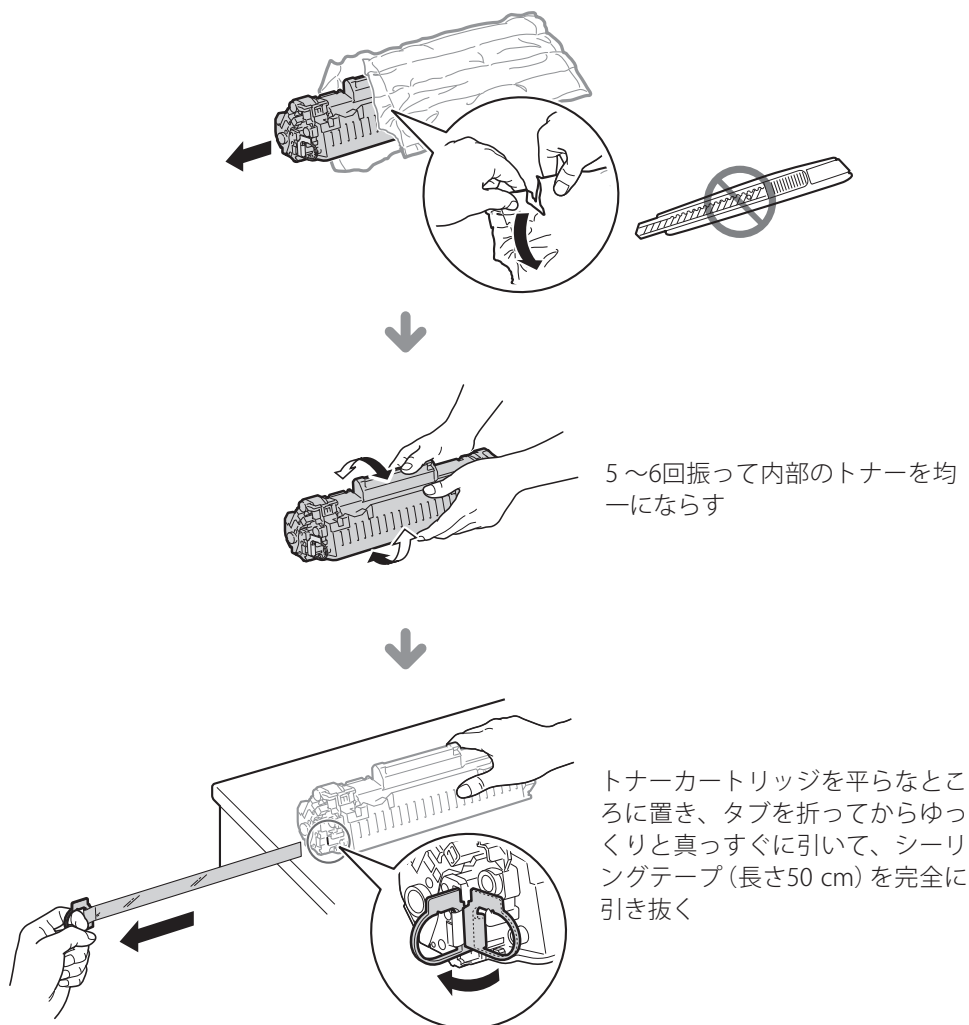
対応するキヤノン純正トナーカートリッジ

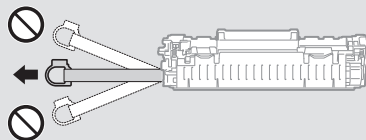
Canon Cartridge 328（キヤノン　カートリッジ　３２８）

1 上部ユニットとトナーカバーを順に開けて、トナーカートリッジを取り出す

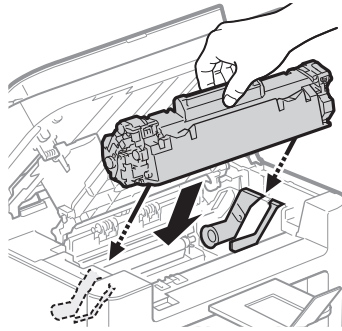
2 新しいトナーカートリッジを準備する

- 保護袋は、捨てずに保管しておいてください。プリンターのメンテナンスなど、トナーカートリッジを取り外したときに必要になります。

5 ～6回振って内部のトナーを均一にならす

トナーカートリッジを平らなところに置き、タブを折ってからゆっくりと真っすぐに引いて、シーリングテープ（長さ50 cm）を完全に引き抜く

シーリングテープを引き抜くときの注意事項

- 曲げて引いたり、上向きや下向きに引っ張らないでください。シーリングテープが途中で切れ、完全に引き抜けなくなることがあります。

- シーリングテープが途中で引っかかっても、最後まで完全に引き抜いてください。
- シーリングテープがトナーカートリッジ内に残っていると、印字不良の原因になります。ファクスをご使用の場合は、受信データは一度印刷すると消去されるため、再度印刷することができませんのでご注意ください。

3 トナーカートリッジを取り付ける

4 トナーカバーと上部ユニットを順に閉める

使用済みのトナーカートリッジを火中に投じない

トナーカートリッジ内に残ったトナーに引火して、やけどや火災の原因になります。

トナーをこぼした場合の対処

トナー粉塵を吸いこまないよう、掃き集めるか濡れた雑巾等で拭き取ってください。

掃除機を使用する場合は、粉塵爆発に対する安全対策がとられていない一般の掃除機は使用しないでください。

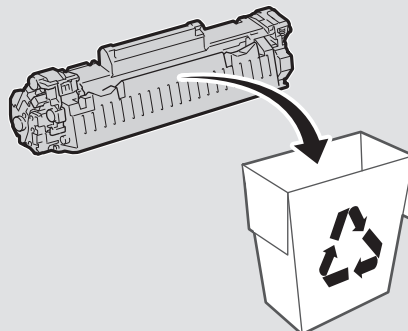
掃除機の故障や静電気による粉塵爆発の原因になる可能性があります。

トナーが手や衣服についた場合の注意

直ちに冷水で洗い流してください。温水で洗うと、汚れがとれなくなることがあります。

トナーが飛び散らないように注意

シーリングテープを勢いよく引き抜いたり、途中で止めたりしないでください。トナーが目や口に入った場合は、直ちに冷水で洗い流し、医師と相談してください。

- 新しいトナーカートリッジから引き抜いたシーリングテープは、地域の条例にしたがって処分してください。
- 使用済みのトナーカートリッジは、リサイクルのため回収を推進しています。資源として再利用できるよう回収にご協力ください。（→P.88）

- トナーカートリッジの取り扱い方法についての詳しい内容はe-マニュアルの「トナーカートリッジを交換する」を参照してください。

レポート/リストを使って管理する

ファクスの通信状態、アドレス帳の保存状態、各種の設定値を印刷し、製品の設定状態のチェックが行えます。

1 [◯](レポート)を押す

2 [▲]/[▼]で＜**リストプリント**＞を選択し、[**OK**]を押す

3 [▲]/[▼]で印刷するレポートやリストを選択し、[**OK**]を押す

＜アドレス帳リスト＞	アドレス帳(短縮ダイヤル、ワンタッチ、グループ)に保存した番号
＜ユーザーデータリスト＞	機器の情報とユーザー環境設定
＜通信管理レポート＞	ファクス通信の内訳

4 画面に表示された手順に従って、印刷する

5 [◯](レポート)を押して終了する

メモ

- ファクスの送信と受信にエラーが発生すると、レポートが印刷されます。レポートに表示されたエラーコードを確認して対処してください。(→P.79)

受付番号	0123
相手先ｱﾄﾞﾚｽ	0123456789
相手先略称	name
開始時刻	01/01 02:07 PM
通信時間	01'15
枚数	1
通信結果	NG
	#018 話し中でした

エラーコード

- 自動出力されるレポートを出力しないように設定するには、上記の手順2で＜**仕様設定**＞を選択し、設定してください。詳しい内容はe-マニュアルの「基本操作」➡「レポートの自動出力を設定する」を参照してください。
- レポートまたはリストは、11ページ以上は印刷されません。

困ったときには

紙づまりが起きたときや、トラブルが解決しないときなどの対処方法について説明しています。

原稿や用紙がつまったら

原稿や用紙がつまったら、画面に<**用紙がつまりました。**>と表示されます。画面に表示された手順に従って、つまった原稿や用紙を取り除いてください。

用紙がつまりました。
[▶]キーで次の手順
を表示します。 ▶

警告

つまった原稿や用紙を取り除くとき

原稿や用紙の端で手を切らないよう注意してください。

つまった用紙を取り除くときや、本体内部を点検するとき

ネックレス、ブレスレットなどの金属製品が本体内部の部品と接触しないようにしてください。やけどや感電の恐れがあります。

注意

手や衣類にトナーが付着した場合

冷水で洗ってください。温水で洗うと、落ちなくなります。

つまった原稿や用紙を取り除くとき

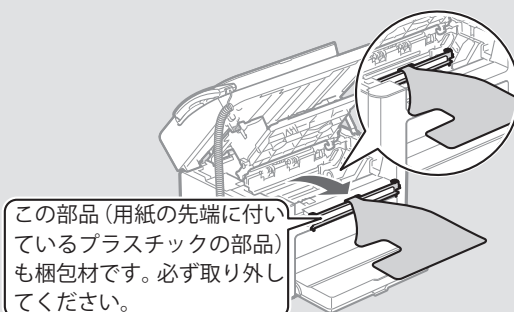
紙づまり時には、画面に表示されているメッセージにしたがって、つまっている用紙を機械内部に紙片が残らないように取り除いてください。また、表示以外の箇所には無理に手を入れないでください。けがややけどの原因になることがあります。

用紙が破れた場合

紙片が残らないように、すべて取り除いてください。

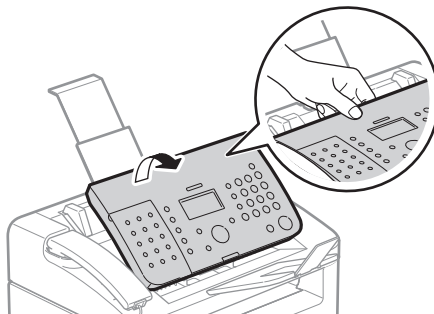
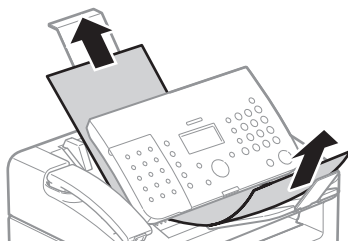
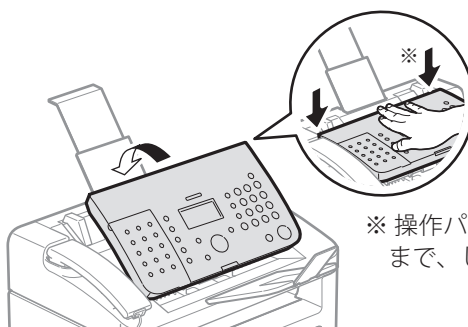
紙づまりが繰り返し起こる場合

以下を確認してください。

- 以下の梱包材が取り外されているかを確認してください。

- 本製品に用紙をセットする前に、平らな場所で揃えてください。
- お使いの用紙が本製品に適しているか確認してください。（→ P.18）
- つまった用紙の切れ端が本体内部に残っていないか、確認してください。

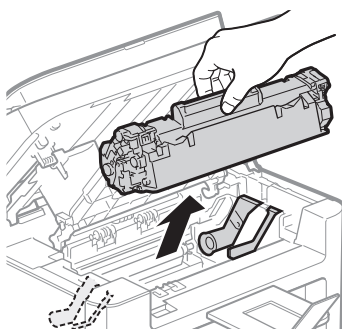
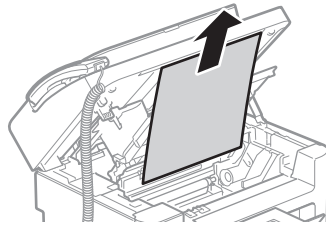
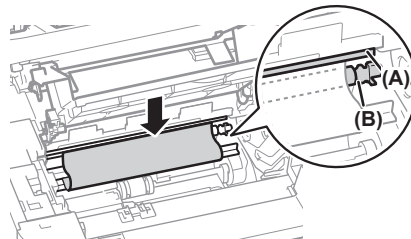
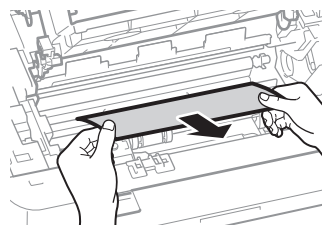
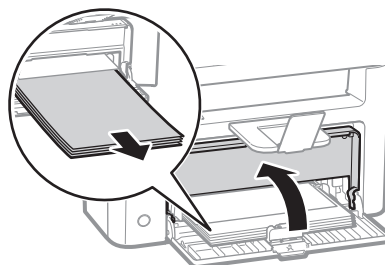
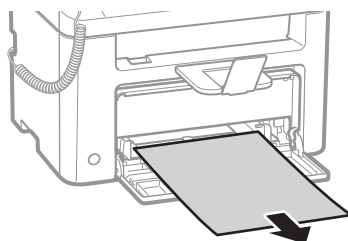
原稿がつまったら

フィーダーにセットされている原稿を取り出したあと、次の手順に従って、つまった原稿を取り除いてください。

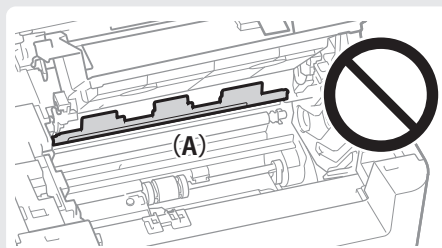
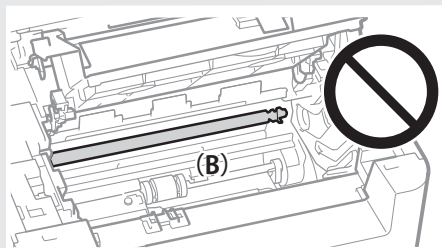
1 操作パネル部を持ち上げる

2 原稿をゆっくり引っぱって取り除く

3 操作パネル部がロックされるまでおろす

内部に用紙がつまったら

次の手順に従って、つまった用紙を取り除いてください。

1 上部ユニットとトナーカバーを順に開ける

2 トナーカートリッジを取り出す

3 用紙をゆっくり引っぱって取り除く

4 定着器（A）とローラー（B）の間につまった用紙を、先端が見えるまで下方向にゆっくり引き出す

5 用紙の先端が出たら、つまった用紙の両端を持って、ゆっくり引っぱって取り除く

6 用紙カバーを開けて、カセットの中の用紙を取り除く

7 つまった用紙をゆっくり引っぱって取り除く

8 カセットに用紙を入れ、用紙カバーを閉める

9 トナーカートリッジを入れ、トナーカバーと上部ユニットを順に閉める

注意

定着器(A)には触れない
使用中に高温になり、やけどの原因になることがあります。

ローラー(B)には触れない
本製品を損傷することがあります。

メッセージが表示されたら

トナー、メモリー、用紙に関するメッセージの一部を説明します。

本書で説明していないメッセージはe-マニュアルの「トラブルシューティング」➡「メッセージが表示されたら」を参照してください。

メッセージ	原因	対処方法
＜ﾄﾅｰｶｰﾄﾘｯｼﾞ部品寿命。ﾄﾅｰｶｰﾄﾘｯｼﾞの交換を推奨＞	トナーカートリッジが正しくセットされていないか、トナーカートリッジが故障している可能性がある。	トナーカートリッジをセットし直してください。引き続きメッセージが表示される場合は、トナーカートリッジが故障している可能性があります。お買い求めの販売店またはキヤノンお客様相談センターにご相談ください。
＜ﾄﾅｰｶｰﾄﾘｯｼﾞを準備してください。＞	トナーの残量が少なくなった。	• トナーを振って均一にならしてください。（→P.68） • 大量に印刷するときは、トナーカートリッジを交換することをおすすめします。（→P.68）
＜ﾄﾅｰｶｰﾄﾘｯｼﾞの交換時期が近づいています。＞	トナーの残量が残りわずかになった。	• トナーを振って均一にならしてください。（→P.68） • 何度もこのメッセージが表示される場合は、トナーカートリッジを交換することをおすすめします。（→P.68） メモ • コピーおよび印刷中に表示された場合は、実行中のジョブは継続して印刷されます。 • ファクス受信中に表示された場合は、受信したファクスは印刷されずにメモリーに保存されます。また、レポートの自動出力を設定していても、印刷されません。
＜メモリーがいっぱいです。＞	メモリー容量が不足してファクスの送受信ができなかった。	• 送信または印刷待ちのジョブがある場合は、ジョブの処理が終了するまでお待ちください。 • メモリーに保存されているジョブを印刷、送信または削除してください。（→P.53） • 原稿を分割して送信してください。 • 読み込み解像度を下げて送信してください。（→P.43）
＜用紙がつまりました。＞	本体内で紙づまりが起きた。	つまった用紙や原稿を取り除いて、セットしなおしてください。（→P.18、P.74）
＜用紙と設定ｻｲｽﾞが不一致＞	適切な用紙サイズが設定されていない。	• セットされている用紙サイズに合わせて、＜**用紙設定**＞メニューを変更してください。（→P.23） • プリンタードライバーから印刷しているときは、コンピューター側で用紙サイズの設定が正しいかどうかも確認してください。

レポートにエラーコードが表示されたら

エラーが発生した場合は、レポートが印刷されます。レポートに表示された3桁のエラーコードの原因を確認し、処置方法に従って問題を解決します。

受付番号 0123
相手先ｱﾄﾞﾚｽ 0123456789
相手先略称 name
開始時刻 01/01 02:07 PM
通信時間 01'15
枚数 1
通信結果 NG
#018 話し中でした

エラーコード	原因	処置
#001	原稿がつまっている可能性がある。	つまっている原稿を取り除いてください。
#003	データ量が大きすぎるため、送信／受信できなかった。	送信時 • 読み取り時の解像度を下げて送信してください。 受信時 • 読み取り時の解像度を下げるか、原稿を分割して送信するよう、相手先に連絡してください。
#005	相手先が35秒以内に応答しなかった。	もう一度はじめからやりなおしてください。また、相手先にファクス機を確認してもらうよう連絡してください。海外へ送信する場合は、ファクス番号にポーズを入れてください。
	相手先のファクスがG3*ファクスでない可能性がある。 *G3とは ITU-T（国際電気通信連合の通信規格などを制定する部門）が標準化したFAXの国際規格の一つで、アナログ電話回線用のもの。	相手先に確認し、G3ファクスに送信してください。相手先がG3ファクスを持っていない場合は、相手先のファクスが対応している通信モードを使って送信しなおしてください。
#012	相手先の記録紙がなくなったため送信できなかった。	相手先に用紙を補給してもらうよう連絡してください。
#018	相手が通話中などで送信できなかった。	しばらく待ってからもう一度やりなおしてください。それでも送信できない場合は、相手先のファクスの電源が入っているかどうか確認してもらってください。
	相手先との設定不一致のため送信できなかった。	相手先が通信可能な状態であることを確認して、もう一度やりなおしてください。
	海外へファクス送信するときにポーズを挿入しなかった。	国番号または宛先のファクス番号のあとにポーズを挿入し、もう一度ダイヤルしてください。ワンタッチに登録済みの宛先に送信するときは、詳細設定画面で国際送信設定を変更してください。
#022	コンピューターからのファクス送信が制限されている。	制限を解除する必要があります。詳しくは、管理者にお問い合わせください。または e-マニュアルの「セキュリティー」➡「宛先操作／送信機能を制限する」➡「コンピューターからのファクス送信を制限する」を参照してください。

エラーコード	原因	処置
#037	メモリーがいっぱいになっている。	メモリーに保存されているデータを印刷／送信／削除してください。
	メモリーの容量以上のデータサイズである。	データの解像度を下げるまたはファイル形式を変更するなどして、容量を小さくしてください。
#099	実行中のジョブをユーザー操作で中止した。	必要に応じてジョブをやり直してください。
#995	送信中または受信中のジョブをユーザー操作で中止した。	必要に応じてジョブをやり直してください。

プリント結果が良くないときには

印刷結果の改善のため、それぞれの症状に推奨された処置を行ってください。

下記に記載の方法で解決できない場合は、e-マニュアルの「トラブルシューティング」をご覧ください。

症状	例	処置
用紙がカールする		• 使用可能な用紙かどうか確認してください。（→P.18） • 未開封の新しい用紙に交換してください。 • 用紙が正しくセットされているか確認してください。（→P.18）
用紙がしわになる		• 使用可能な用紙かどうか確認してください。（→P.18） • 未開封の新しい用紙に交換してください。 • 用紙が正しくセットされているか確認してください。（→P.18） • 本体内部の異物の有無を確認してください。 • 操作パネルで<**特殊モードD**>の設定を変更してください。
印字ムラが出る		• 使用可能な用紙かどうか確認してください。（→P.18） • 未開封の新しい用紙に交換してください。 • 用紙が正しくセットされているか確認してください。（→P.18） • トナー残量を確認してください。（→P.67）
白く抜ける		• 使用可能な用紙かどうか確認してください。（→P.18） • 未開封の新しい用紙に交換してください。 • トナーカートリッジを交換してください。（→P.68） • 濃度が濃い文書の場合は、プリンタードライバーで濃度を調節してください。 （［**仕上げ**］➡［**処理オプション**］➡［**特殊印字処理**］の順に選択し、［**特殊設定2**］を選択）
トナーが手に付着する		• 使用可能な用紙かどうか確認してください。（→P.18） • 未開封の新しい用紙に交換してください。 • 用紙のサイズと種類が正しく設定されているか確認してください。（→P.23）

症状	例	処置
すじ状の汚れが付く		• 未開封の新しい用紙に交換してください。 • ファクス受信プリントやレポートプリントの場合は、操作パネルで＜**特殊モードB**＞の設定を変更してください。 • すべてのジョブに対処を適用する場合は、プリンタードライバーの［**特殊印字モード**］の設定を変更してください。 • 操作パネルで＜**特殊モードC**＞の設定を変更してください。
文字やパターンのまわりにトナーが飛び散ったような跡が付く		• 使用可能な用紙かどうか確認してください。（→P.18） • 未開封の新しい用紙に交換してください。 • 操作パネルで＜**特殊モードH**＞の設定を変更してください。
印字が全体的に黒ずむ		• コピー時の濃度の設定を確認してください。（→P.27） • 本製品が直射日光の当たる場所に設置されていたら、設置場所を移動してください。
用紙の後端やその後続紙が汚れる		• データの周囲に余白を作ってください。
ページの一部が印刷されない		• データの周囲に余白を作ってください。
プリントしたバーコードが読み取れない		• プリンタードライバーで特殊印字処理の設定を変更してください。（［**仕上げ**］→［**処理オプション**］→［**特殊印字処理**］の順に選択し、［**特殊設定1**］を選択）

故障かな？と思ったら

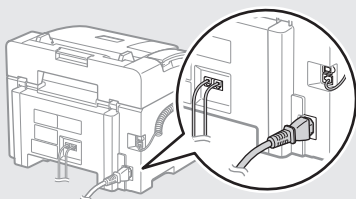
次の手順に従って、問題が解決するかどうか確認してください。

警告

本製品から変な音がしたり、煙が出たり変なにおいがする場合

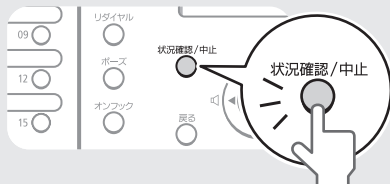
すぐに主電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いて、お近くのキヤノン販売店またはキヤノンお客様相談センターにご連絡ください。ご自分で分解したり、修理したりしないでください。

ご自分で分解修理した場合は、保証の対象外になることがあります。

Check 1 ケーブルが正しく接続されているか、電源が入っているか確認する（スタートアップガイドを参照）

Check 2 節電モードになっているか確認する（→P.24）

- ［**節電**］キーが点灯していたら、［**節電**］キーを押して節電モードを解除する

Check 3 ［状況確認/中止］キーを押して本製品の状態を確認する

- 進行中のジョブがある場合は、終了するまでお待ちください

Check 4 エラーランプが点灯または点滅しているか？

- 用紙のセット状態を確認する（→P.18）
- 紙づまりが発生しているか確認して、発生していれば取り除く（→P.74）
- 電源を切り、10秒後に電源を入れなおす

Check 5 メッセージが表示されているか？

- メッセージの内容を確認して対処する（→P.78）

解決しなかったら

e-マニュアルの「トラブルシューティング」を確認するか、キヤノン公式ホームページのサポートで提供するQ&Aを検索して確認する

解決しなかったら

お近くのキヤノン販売店または「キヤノンお客様相談センター」に連絡する

ご連絡の際には、以下をお手元にご用意ください。

- 製品名
- シリアル番号
- 購入先
- トラブルの内容
- トラブルにどのような対処をされたか、およびその結果

キヤノンマーケティングジャパン株式会社
〒108-8011　東京都港区港南2-16-6
お客様相談センター（全国共通番号）　050-555-90055
※上記番号をご利用いただけない方は043-211-9331をご利用ください。

FAQ

Fax Q　ファクス受信時に着信音を鳴らさないようにできますか？

A

FAX/TEL切替モードをお使いの場合のみ、ファクスの着信音を鳴らさないようにできます。
ファクスの着信音を鳴らさないようにするには、[ ]（メニュー）➡ ＜**ファクス受信設定**＞ ➡ ＜**ファクス設定**＞ ➡ ＜**着信呼出**＞ ➡ **<OFF>**を押します。

Fax Q　FAX/TEL切替モードをお使いの場合、数回しか着信音が鳴らないため電話に応答できないことがあります。どうすれば着信時に着信音を鳴らす回数を増やせますか？

A

[ ]（メニュー）➡ ＜**ファクス受信設定**＞ ➡ ＜**ファクス設定**＞ ➡ ＜**自動受信切替**＞ ➡ **<ON>**
を押したあと、着信音を鳴らす回数を設定します。

Fax Q　留守番電話機が本製品に接続されている場合、どうすれば着信時のみ留守番機能を起動できますか？

A

ファクス受信モードを＜留守TEL接続＞に設定した上で、着信音が1 〜2回鳴ったあとに留守番機能が起動するように設定してください。
着信音が最低2回鳴ったあとに留守番機能が起動するように留守番電話機で設定されている場合、本製品は留守番機能が起動する前にファクス信号を認識します。

着信音の回数を変更する場合の詳細については、留守番電話機に付属の取扱説明書を参照してください。

Fax Q　ファクス機能付きの外付け電話機が本製品と接続されている場合に、外付け電話機ではなく本製品でファクスを受信したい。

A

ファクス受信モードを＜FAX/TEL切替＞に設定して、外付け電話機のファクス機能を無効にしてください。
本製品と外付け電話機のファクス機能がどちらも有効に設定されている場合、最初にファクス信号を認識した機器がファクスを受信します。常に本製品でファクスを受信したい場合は、外付け電話機のファクス機能を無効にしてください。

詳細については、外付け電話機に付属の取扱説明書を参照してください。

停電のときには

電力供給が止まっている間、本製品は使用できません。

停電時のファクス機能について

- 原稿を送受信できません。
- 外付け電話機で電話をかけられないことがあります。ただし、お使いの電話機の種類によって異なります。
- 外付け電話機で電話を受けられることがあります。ただし、お使いの電話機の種類によって異なります。

電源供給が止まったときのデータ保存

停電の発生や電源コードが誤って抜けるなどが原因で電源供給が止まっても、メモリーに蓄積されていた送受信データは約 5 分間保存されます。

内蔵バッテリーの充電について

内蔵バッテリーを完全に充電するには電源を入れてから約 24 時間かかります。

充電が不十分だとメモリー内にデータがきちんと保存されない場合があります。

安全にお使いいただくために

本製品をお使いになる前に、「安全にお使いいただくために」をよくお読みいただき、正しくご使用ください。

ここに書かれている警告や注意、重要事項は、お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防ぐための内容ですので、必ずお守りください。

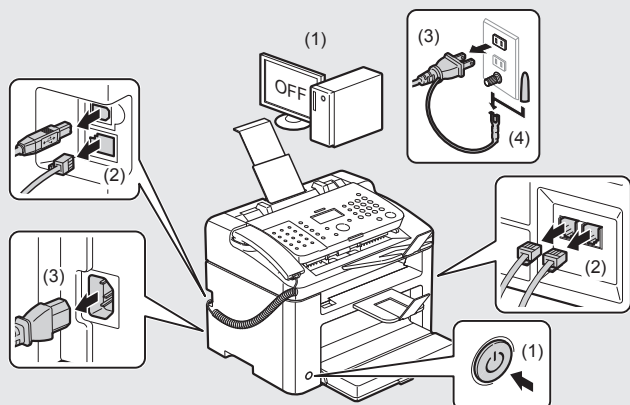
また、取扱説明書に記載されていること以外は行わないでください。

設置について

警告

- アルコール、シンナーなどの引火性溶剤の近くに設置しないでください。引火性溶剤が製品内部の電気部品などに接触すると、火災や感電の原因になります。
- 製品の上に次のような物を置かないでください。
  - アクセサリーなどの金属物
  - コップや花瓶、植木鉢などの水や液体が入った容器

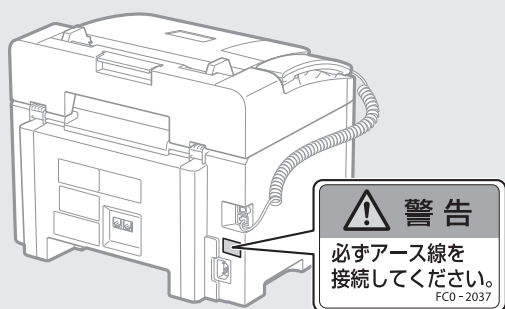
これらが製品内部の電気部品などに接触すると、火災や感電の原因になります。

製品内部に入った場合は、直ちに本製品とコンピューターの電源をオフにし(1)、インターフェイスケーブルを接続している場合は、インターフェイスケーブルを抜いてください(2)。そのあと、電源プラグを抜いて(3)、アース線を取り外し(4)、お買い求めの販売店にご連絡ください。

注意

- ぐらついた台の上や傾いた所などの不安定な場所、振動の多い場所に設置しないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因になることがあります。
- 製品には通気口がありますので、壁や物でふさがないように設置してください。またベッドやソファー、毛足の長いじゅうたんなどの上に設置しないでください。通気口をふさがれると製品内部に熱がこもり、火災の原因になることがあります。
- 製品を次のような場所に設置しないでください。火災や感電の原因になることがあります。
  - 湿気やホコリの多い場所
  - 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所
  - 雨や雪が降りかかるような場所
  - 水道の蛇口付近などの水気のある場所
  - 直射日光のあたる場所
  - 高温になる場所
  - 火気に近い場所
- 製品を設置する場合は、製品と床面、製品と製品の間に手などを挟まないように、ゆっくりと慎重に行ってください。手などを挟むと、けがの原因になることがあります。
- インターフェイスケーブルを接続する場合は、取扱説明書の指示にしたがって正しく接続してください。正しく接続しないと、製品の故障や感電の原因になることがあります。
- 製品を持ち運ぶ場合は、取扱説明書の指示にしたがって正しく持ってください。製品を落としたりして、けがの原因になることがあります。「本製品を移動するとき」(→e-マニュアル)

電源について

警告

- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また重いものを置いたり、引っぱったり、無理に曲げたりしないでください。傷ついた部分から漏電して、火災や感電の原因になります。
- 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被覆が溶けて、火災や感電の原因になります。
- 電源コードが引っ張られた状態にしないでください。電源プラグが緩んで接続が不完全になると発熱し、火災の原因になることがあります。
- 電源コードを踏みつけたり、ステイプルなどで固定したり、重いものをのせたりしないでください。コードがいたみ、そのままご使用を続けると、火災や感電などの事故の原因になります。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因になります。
- タコ足配線はしないでください。火災や感電の原因になります。
- 電源コードを束ねたり、結んだりしないでください。火災や感電の原因になります。
- 電源プラグは電源コンセントの奥までしっかりと差し込んでください。しっかりと差し込まないと、火災や感電の原因になります。
- 電源コネクタが接続される製品の差込口にストレスが強くかかると、製品の内部で断線や接触不良が発生し、故障の原因になります。また、火災の原因になる場合もあります。以下のような取り扱いは避けてください。
  - 電源コネクタを頻繁に抜き差しする
  - 電源コードに足を引っ掛ける
  - 電源コードが電源コネクタ付近で曲げられ、製品の差込口に継続的なストレスがかかっている
  - 電源コネクタに強い衝撃を加える
- 付属の電源コード以外は使用しないでください。火災や感電の原因になります。
- アース線を接続してください。万一漏電した場合は感電の恐れがあります。

- アース線を接続するときは、以下の点にご注意ください。

  ［アース線を接続してもよいもの］
  - 電源コンセントのアース線端子
  - 接地工事（D種）が行われているアース線端子

  ［アース線を接続してはいけないもの］
  - 水道管･･･配管の途中でプラスティックになっている場合があり、その場合にはアースの役目を果たしません。ただし、水道局がアース対象物として許可した水道管にはアース線を接続できます。
  - ガス管･･･ガス爆発や火災の原因になります。
  - 電話線のアースや避雷針･･･落雷のときに大きな電流が流れ、火災や感電の原因になります。
- 原則的に延長コードは使用しないでください。また、延長コードの多重配線はしないでください。火災や感電の原因になります。
- アース線を接続する場合は、必ず電源プラグを電源コンセントに接続する前に行ってください。また、アース線を取り外す場合は、必ず電源プラグを電源コンセントから抜いて行ってください。
- 近くに雷が発生したときは、電源プラグをコンセントから抜いてご使用をお控えください。雷によっては火災・感電・故障の原因になります。

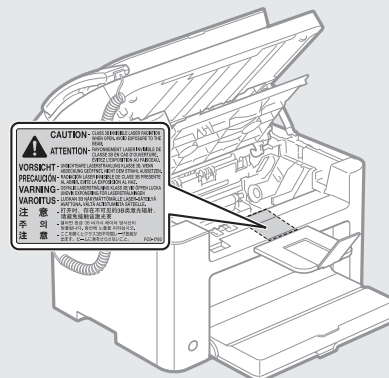
注意

- 表示された以外の電源電圧で使用しないでください。火災や感電の原因になることがあります。
- 電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。電源コードを引っぱると、電源コードの芯線の露出、断線など電源コードが傷つき、その部分から漏電して、火災や感電の原因になることがあります。
- いつでも電源プラグが抜けるように、電源プラグの周りには物を置かないでください。非常時に電源プラグが抜けなくなります。

取り扱いについて

- 製品を分解したり、改造したりしないでください。内部には高圧・高温の部分があり、火災や感電の原因になります。
- 電気部品は誤って取り扱うと思わぬけがをして危険です。電源コードやケーブル類、製品内部のギアや電気部品に子供が触れないように注意してください。
- 異常な音がしたり、煙が出たり、熱が出たり、変なにおいがした場合は、直ちに本製品とコンピューターの電源をオフにし、インターフェイスケーブルを接続している場合は、インターフェイスケーブルを抜いてください。そのあと、電源プラグを抜いて、アース線を取り外し、お買い求めの販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。
- 製品の近くでは可燃性のスプレーなどは使用しないでください。スプレーのガスなどが製品内部の電気部品などに接触すると、火災や感電の原因になります。
- 製品を移動させる場合は、必ず本製品とコンピューターの電源をオフにし、電源プラグを抜き、インターフェイスケーブルを取り外してください。そのまま移動すると、電源コードやインターフェイスケーブルが傷つき、火災や感電の原因になります。
- 製品を移動させたあとは、電源プラグや電源コネクタが奥までしっかり差し込まれているか確認してください。緩んだ状態で使用すると発熱し、火災の原因になります。
- 製品内部にクリップやステイプル針などの金属片を落とさないでください。また、水、液体や引火性溶剤（アルコール、ベンジン、シンナーなど）をこぼさないでください。これらが製品内部の電気部分に接触すると、火災や感電の原因になります。これらが製品内部に入った場合は、直ちに本製品とコンピューターの電源をオフにし、インターフェイスケーブルを接続している場合は、インターフェイスケーブルを抜いてください。そのあと、電源プラグを抜いて、アース線を取り外し、お買い求めの販売店にご連絡ください。
- 電源プラグを電源コンセントに接続している状態でUSBケーブルを接続するときは、アース線が接続されていることを確認してから行ってください。アース線が接続されていない状態で行うと、感電の原因になります。
- 電源プラグを電源コンセントに接続している状態でUSBケーブルを抜き差しするときは、コネクタの金属部分に触れないでください。感電の原因になります。

注意

- 製品の上に重いものを置かないでください。置いたものが倒れたり、落ちてけがの原因になることがあります。
- 夜間などで長時間ご使用にならない場合は、安全のため電源をオフにしてください。また､連休などで長時間ご使用にならない場合は、安全のため電源をオフにし、電源プラグを抜いてください。
- カバーやカセットなどの開閉を行うときは、ゆっくりと慎重に行ってください。指などを挟むと、けがの原因になることがあります。
- 排紙部のローラーには衣服や手などを近づけないでください。プリント中でなくてもローラーが急に回転し、衣服や手などが巻き込まれて、けがの原因になることがあります。
- 製品の使用中や使用直後は、排紙口が高温になります。排紙口周辺に触れないように気を付けてください。やけどの原因になることがあります。
- 排紙直後の用紙は、熱くなっている場合があります。特に連続プリントした場合は、用紙を取り除くときや、取り除いた用紙を揃えるときに注意してください。やけどの原因になることがあります。
- 上部ユニットと操作パネル部は、手を挟まないように静かに閉じてください。けがの原因になることがあります。
- レーザー光は、人体に有害となる恐れがあります。そのため本製品では、レーザー光はレーザースキャナーユニット内にカバーで密閉されており、お客様が通常の操作をする場合にはレーザー光が漏れる心配はまったくありません。安全のために以下の注意事項を必ずお守りください。
  - 取扱説明書で指示された以外のカバーは､絶対に開けないでください。
  - レーザースキャナーユニットのカバーに貼ってある注意ラベルをはがさないでください。

  - 万一レーザー光が漏れて目に入った場合､目に障害が起こる原因になることがあります。

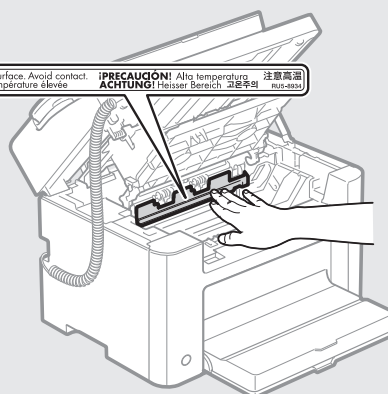
- 取扱説明書で規定された、制御、調整および操作手順以外のご利用は、危険な放射線の露出を引き起こす可能性があります。
- この製品はIEC60825-1:2007 においてクラス1 レーザー製品であることを確認しています。

保守／点検について

警告

- 清掃のときは、本製品とコンピューターの電源をオフにし、インターフェイスケーブルを抜き、電源プラグを抜いてください。火災や感電の原因になります。
- 電源プラグを定期的に抜き、その周辺およびコンセントにたまったホコリや汚れを、乾いた布でふき取ってください。ホコリ、湿気、油煙の多いところで、電源プラグを長期間差したままにすると、その周囲にたまったホコリが湿気を吸って絶縁不良となり、火災の原因になります。
- 清掃のときは、必ず水または水で薄めた中性洗剤を含ませて固く絞った布を使用してください。アルコール、ベンジン、シンナーなどの引火性溶剤は使用しないでください。引火性溶剤が製品内部の電気部品などに接触すると、火災や感電の原因になります。
- 製品内部には高圧になる部分があります。紙づまりの処理など内部を点検するときは、ネックレス、ブレスレットなどの金属物が製品内部に触れないように点検してください。やけどや感電の原因になります。
- 使用済みのトナーカートリッジを火中に投じないでください。トナーカートリッジ内に残ったトナーに引火して、やけどや火災の原因になります。
- トナーをこぼした場合は、トナー粉塵を吸いこまないよう、掃き集めるか濡れた雑巾等で拭き取ってください。
  掃除機を使用する場合は、粉塵爆発に対する安全対策がとられていない一般の掃除機は使用しないでください。
  掃除機の故障や静電気による粉塵爆発の原因になる可能性があります。
- 清掃のあとは、電源プラグや電源コネクタが奥までしっかり差し込まれているか確認してください。緩んだ状態で使用すると発熱し、火災の原因になることがあります。
- 電源コード・電源プラグを定期的に点検してください。以下の状態がある場合は、火災の原因になりますので、お買い求めの販売店または弊社お客様相談センターにご連絡ください。
  - 電源プラグに焦げ跡がある
  - 電源プラグの刃が変形している
  - 電源コードを曲げると、電源が切れたり入ったりする
  - 電源コードの被覆に傷、亀裂、へこみがある
  - 電源コードの一部が熱くなる
- 電源コード、電源プラグが以下のように取り扱われていないか、定期的に点検してください。火災や感電の原因になります。
  - 電源コネクタが緩んでいる
  - 電源コードが重い物の下敷きになっていたりステイプルで固定されるなど、ストレスを与えられている
  - 電源プラグが緩んでいる
  - 電源コードが束ねられている
  - 電源コードが通路にはみ出している
  - 電源コードが暖房器具の前にある

注意

- 製品内部の定着器周辺は、使用中に高温になります。紙づまりの処理など内部を点検するときは、定着器周辺に触れないように点検してください。やけどの原因になることがあります。

- 紙づまり処理など内部を点検するとき、定着器周辺に直接触れなくても、定着器周辺の熱に長時間さらされないように注意してください。低温やけどの原因になることがあります。
- 紙づまり時には、画面に表示されているメッセージにしたがって、つまっている用紙を機械内部に紙片が残らないように取り除いてください。また、表示以外の箇所には無理に手を入れないでください。けがややけどの原因になることがあります。
- 紙づまり処理やトナーカートリッジを交換するときは、トナーで衣服や手を汚さないように注意してください。衣服や手が汚れた場合は、直ちに水で洗い流してください。温水で洗うと、汚れがとれなくなることがあります。
- 紙づまりで用紙を製品内部から取り除くときは、紙づまりしている用紙の上にのっているトナーが飛び散らないように、丁寧に取り除いてください。トナーが目や口などに入ることがあります。トナーが目や口に入った場合は、直ちに水で洗い流し、医師に相談してください。
- 用紙を補給するとき、原稿づまりや紙づまりを取り除くときは、原稿や用紙の端で手を切ったりしないように、注意して扱ってください。
- トナーカートリッジを取り出すときは、トナーが飛び散って目や口などにトナーが入らないように、丁寧に取り出してください。トナーが目や口に入った場合は、直ちに水で洗い流し、医師に相談してください。
- トナーカートリッジは分解しないでください。トナーが飛び散って目や口などに入ることがあります。トナーが目や口に入った場合は、直ちに水で洗い流し、医師に相談してください。
- トナーカートリッジからトナーが漏れたときは、吸い込んだり直接皮膚につけたりしないように注意してください。皮膚についた場合は、石鹸を使い水で洗い流し、刺激が残る場合や吸い込んだ場合には直ちに医師に相談してください。

消耗品について

警告

- トナーカートリッジを火中に投じないでください。トナーに引火して、やけどや火災の原因になります。
- トナーカートリッジ、用紙は火気のある場所に保管しないでください。トナーや用紙に引火して、やけどや火災の原因になります。
- トナーカートリッジを廃棄する場合は、トナーカートリッジを袋に入れてトナーが飛び散らないようにし、自治体の指示にしたがって処理してください。
- トナーをこぼした場合は、トナー粉塵を吸いこまないよう、掃き集めるか濡れた雑巾等で拭き取ってください。
  掃除機を使用する場合は、粉塵爆発に対する安全対策がとられていない一般の掃除機は使用しないでください。
  掃除機の故障や静電気による粉塵爆発の原因になる可能性があります。

注意

- トナーカートリッジなどの消耗品は幼児の手が届かないところへ保管してください。もしトナーカートリッジ内のトナーを飲んだ場合は、直ちに医師に相談してください。
- トナーカートリッジは分解しないでください。トナーが飛び散って目や口などに入ることがあります。トナーが目や口に入った場合は、直ちに水で洗い流し、医師に相談してください。
- トナーカートリッジからトナーが漏れたときは、吸い込んだり直接皮膚につけたりしないように注意してください。皮膚についた場合は、石鹸を使い水で洗い流し、刺激が残る場合や吸い込んだ場合には直ちに医師に相談してください。
- シーリングテープを勢いよく引き抜いたり、途中で止めたりするとトナーが飛び散ることがあります。トナーが目や口に入った場合は、直ちに水で洗い流し、医師と相談してください。

その他

警告

- 心臓ペースメーカーをご使用の方へ
  本製品から微弱な磁気が出ています。心臓ペースメーカーをご使用の方は、異常を感じたら本製品から離れてください。そして、医師にご相談ください。

設置条件と取り扱いについて

本製品を安全かつ快適にご使用いただくために、次の条件を満たした場所に設置してください。また、注意事項についてもよくお読みください。

温度／湿度条件

- 温度範囲：10 ～ 30 ℃
- 湿度範囲：20 ～ 80 %RH（相対湿度・結露しないこと）

本製品の結露の防止

- 次のようなときは2時間以上放置して、周囲の温度や湿度に慣らしてからご使用ください。
  - 部屋を急に暖めた
  - 温度や湿度が低い場所から高い場所へ移動させた
- 本製品内部に水滴（結露）が生じると、紙づまりや印字不良の原因になることがあります。

超音波加湿器を使用するとき

超音波加湿器をご使用の際には、純水など不純物を含まない水のご使用をおすすめします。

水道水や井戸水をご使用になりますと、水中の不純物が大気中に放出され、製品の内部に付着して画像不良の原因になります。

電源条件

- AC 100 V ± 10 %、15 A以上
- 50/60 Hz ± 2 Hz

電源を接続するときの注意

- 電源コードを無停電電源に接続しないでください。
- 本製品専用の電源コンセントを使用してください。同一電源コンセントの他の差し込み口は、使用しないでください。
- コンピューター本体の補助コンセントに電源を接続しないでください。
  次のような機器と同じコンセントに接続しないでください。
  - 複写機
  - エアコン
  - シュレッダー
  - 消費電力の大きな機器
  - 電気的ノイズを発生する機器
- 屋内漏電ブレーカを介して配線されている電源コンセントの使用を推奨します。
  本製品のアース線を接続すると、感電のみならず、特異な条件が重なることにより発生する火災を防止することができます。
- 電源コードを抜いたときは差しなおすまでに5秒以上間隔をおいてください。

その他の注意事項

- 本製品の最大消費電力は、830 W以下です。
- 電気的なノイズ、許容範囲を超える電源電圧の降下は、本製品やコンピューターの誤動作、あるいはデータ消失の原因になることがあります。
- お使いの電源についてご不明な点は、電力会社またはお近くの電気店などにご相談ください。

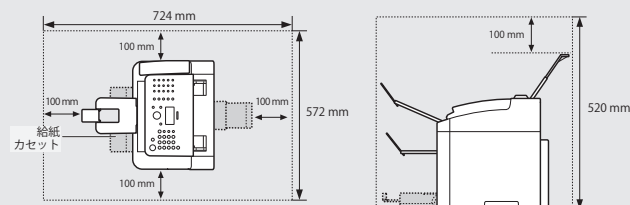
設置条件

- 十分なスペースが確保できる場所
- 風通しがよい場所
- 平坦で水平な場所
- 本製品の質量に耐えられる十分な強度のある場所

故障の原因になる可能性がある場所には設置しない

- 急激な温度変化や湿度変化がある場所
- 結露の発生する場所
- 風通しの悪い場所
  （使用中の製品からは、オゾンなどが発生しますが、その量は人体に影響を及ぼさない程度です。ただし、換気の悪い場所で長時間使用する場合や、大量にプリントする場合には、快適な作業環境を保つため、部屋の換気をするようにしてください。）
- 磁気や電磁波を発生する機器に近い場所
- 実験室など、化学反応を起こすような場所
- 空気中に、腐食性または毒性のガスを含んでいるような場所
- 機器の質量でゆがみや沈みが起きる可能性のある場所（じゅうたん／畳の上など）

設置スペース

周囲に必要なスペース

取り扱いと保守／点検について

- 本製品に貼ってある注意ラベルの指示にしたがってください。
- 本製品に強い衝撃や振動を与えないでください。
- 紙づまりを防ぐために、プリント中は電源のオフ/オン、操作パネル部やカバーの開閉、用紙の出し入れをしないでください。
- 移転や引っ越しなどで本製品を輸送するときは、トナーカートリッジを必ず本体から取り外してください。

- トナーカートリッジは、光にさらさないように、購入時に収められていた保護袋に入れるか、厚手の布でくるんでください。
- 定期的に本製品を清掃してください。ホコリなどがたまると正しく動作しないことがあります。
- モジュラーケーブルには、3m以内の長さのものを使用してください。
- 電話回線の抵抗値と本製品の抵抗値の合計が1700 Ωを超える場合など、電話回線や地域などの条件によって通信できないことがあります。このようなときには、お買い上げの販売店またはキヤノンお客様相談センターにご連絡ください。
- 本製品の補修用性能部品およびトナーカートリッジの最低保有期間は、本製品製造打ち切り後7年間です。

カスタマーサポート

本製品は、メンテナンスフリーで安心してお使いいただけるように作られています。操作上問題が発生したときは、「困ったときには」(→ P. 73)を参照してください。それでも解決しない場合や点検が必要と考えられる場合には、お買い求めの販売店またはキヤノンお客様相談センターにご連絡ください。

資源再利用について

キヤノンでは環境保全ならびに資源の有効活用のため、リサイクルの推進に努めております。回収窓口が製品により異なりますので、以下の内容をお読みいただき、ご理解とご協力をお願いします。

使用済み複写機の受け入れ場所について

使用済みとなった複写機につきましては、次のように回収を行っています。お問い合わせ先に注意してご連絡願います。

	キヤノンでは、環境保全と資源の有効活用のため、回収されたオフィス用、使用済み複写機のリサイクルを推進しています。 使用済みの複写機の回収については、お買い求めの販売店、または弊社お客様相談センターもしくは担当の営業にお問い合わせください。 なお、事情により回収にご協力いただけない場合には、廃棄物処理法に従い処分してください。

使用済みトナーカートリッジなどの回収について

使用済みとなったトナーカートリッジなどにつきましては、次のように回収を行っています。お問い合わせ先に注意してご連絡願います。

	キヤノンでは、環境保全と資源の有効活用のため、使用済みトナーカートリッジの回収とリサイクルを推進しています。 使用済みトナーカートリッジの回収については、担当のサービス店、または弊社お客様相談センターにお問い合わせください。 なお、事情により回収にご協力いただけない場合には、トナーがこぼれないようにビニール袋などに入れて、地域の条例に従い処分してください。

規制について

本体製品名称について

この製品は、販売されている地域の安全規制にしたがって、以下の( )内の名称で登録されている場合があります。
Canofax L250 (F162002)

電波障害規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。
なお、通信ケーブルはシールド付をご使用ください。

VCCI-B

高調波の抑制について

本機器はJIS C 61000-3-2 高調波電流発生限度値に適合しています。

国際エネルギースタープログラムについて

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの基準に適合していると判断します。
国際エネルギースタープログラムは、コンピューターをはじめとしてオフィス機器の省エネルギー化推進のための、国際的なプログラムです。
このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により、参加することができる任意制度となっています。
対象となる製品はコンピューター、ディスプレー、プリンター、ファクシミリおよび複写機などのオフィス機器で、それぞれの基準並びにマーク（ロゴ）は、参加各国の間で統一されています。

物質エミッションの放散に関する認定基準について

粉塵、オゾン、スチレン、ベンゼンおよびTVOCの放散については、エコマークNo117「複写機Version2」の物質エミッションの放散速度に関する認定基準を満たしています。（トナーは本製品用に推奨しておりますCartridge 328を使用し、複写を行った場合について、試験方法：RAL-UZ 122: 2006 の付録2 に基づき試験を実施しました。）

原稿などを読み込む際の注意事項

以下を原稿として読み込むか、あるいは複製したり、加工したりすると、法律により罰せられる場合がありますのでご注意ください。

- 著作物など

  他人の著作物を権利者に無断で複製などすることは、個人的または家庭内その他これに準ずる限られた範囲においての使用を目的とする場合を除き違法となります。また、人物の写真などを複製する場合には肖像権が問題となることがあります。
- 通貨、有価証券など

  以下のものを本物と偽って使用する目的で複製すること、またはその本物と紛らわしいものを作成することは法律により罰せられます。
  - 紙幣、貨幣、銀行券（外国のものを含む）
  - 国債証券、地方債証券
  - 郵便為替証書
  - 郵便切手、印紙
  - 株券、社債券
  - 手形、小切手
  - 定期券、回数券、乗車券
  - その他の有価証券
- 公文書など

  以下のものを本物と偽って使用する目的で偽造することは法律により罰せられます。
  - 公務員または役所が作成した免許証、登記簿謄本その他の証明書や文書

- 私人が作成した契約書その他権利義務や事実証明に関する文書
- 役所または公務員の印影、署名または記号
- 私人の印影または署名

［関係法律］

- 刑法
- 著作権法
- 通貨及証券模造取締法
- 外国ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券
- 証券偽造変造及模造ニ関スル法律
- 郵便法
- 郵便切手類模造等取締法
- 印紙犯罪処罰法
- 印紙等模造取締法

商標について

Canon、Canonロゴ、およびCanofaxはキヤノン株式会社の商標です。

Apple、Mac OS、Macintoshは、米国およびその他の国で登録されているApple Inc.の商標です。

MicrosoftおよびWindowsは、米国Microsoft Corporationの、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他、本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

著作権について

キヤノン株式会社の事前の書面による承諾を得ることなしに、いかなる形式または手段（電子的、機械的、磁気的、光学的、化学的、手動、またはその他の形式／手段を含む）をもっても、本書の全部または一部を、複製、転用、複写、検索システムへの記録、任意の言語やコンピューター言語への変換などをすることはできません。

第三者のソフトウェアについて

お客様がご購入のキヤノン製品（以下、「本製品」）には、第三者のソフトウェア・モジュール（その更新されたものを含み以下、「第三者ソフトウェア」）が含まれており、かかる「第三者ソフトウェア」には、以下1～8の条件が適用されます。

1. お客様が「第三者ソフトウェア」の含まれる「本製品」を、輸出または海外に持ち出す場合は、日本国及び関連する諸外国の規制に基づく関連法規を遵守してください。
2. 「第三者ソフトウェア」に係るいかなる知的財産権、権原および所有権は、お客様に譲渡されるものではなく、「第三者ソフトウェア」の権利者に帰属します。
3. お客様は、「第三者ソフトウェア」を、「本製品」に組み込まれた状態でのみ使用することができます。
4. お客様は、権利者の事前の書面による許可無く、「第三者ソフトウェア」を開示、再使用許諾、販売、リース、譲渡してはなりません。
5. 上記にかかわらず、お客様は、以下の条件に従う場合のみ、「第三者ソフトウェア」を譲渡することができます。
    - お客様が「本製品」に関するすべての権利、および「第三者ソフトウェア」に関するすべての権利および義務を譲渡すること
    - お客様から譲渡を受ける者が、「本製品」に附帯する条件に同意していること
6. お客様は、「第三者ソフトウェア」の全部または一部を修正、改変、逆アセンブル、逆コンパイル、その他リバースエンジニアリング等することはできません。
7. お客様は、「本製品」に含まれる「第三者ソフトウェア」を除去したり、「第三者ソフトウェア」を複製してはなりません。
8. 「第三者ソフトウェア」中のソースコードについては、お客様にいかなるライセンスも許諾されません。

免責事項

本書の内容は予告なく変更することがありますのでご了承ください。キヤノン株式会社は、ここに定める場合を除き、市場性、商品性、特定使用目的の適合性、または特許権の非侵害性に対する保証を含め、明示的または暗示的にかかわらず本書に関していかなる種類の保証を負うものではありません。キヤノン株式会社は、直接的、間接的、または結果的に生じたいかなる自然の損害、あるいは本書をご利用になったことにより生じたいかなる損害または費用についても、責任を負うものではありません。

消耗品のご注文先

販 売 先

電話番号

担当部門

担 当 者

サービス担当者 連絡先

販 売 店

電話番号

担当部門

担 当 者

Canon　キヤノン株式会社・キヤノンマーケティングジャパン株式会社

お客様相談センター
（全 国 共 通 番 号）

050-555-90055

［受付時間］　〈平日〉9:00～20:00
〈土日祝祭日〉10:00～17:00
（1/1～3は休ませていただきます）

※上記番号をご利用いただけない方は 043-211-9331 をご利用ください。
※IP電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによってつながらない場合があります。
※受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

キヤノンマーケティングジャパン株式会社　〒108-8011　東京都港区港南2-16-6

FT5-4660 (000)　XXXXXXXXXX　　PRINTED IN KOREA